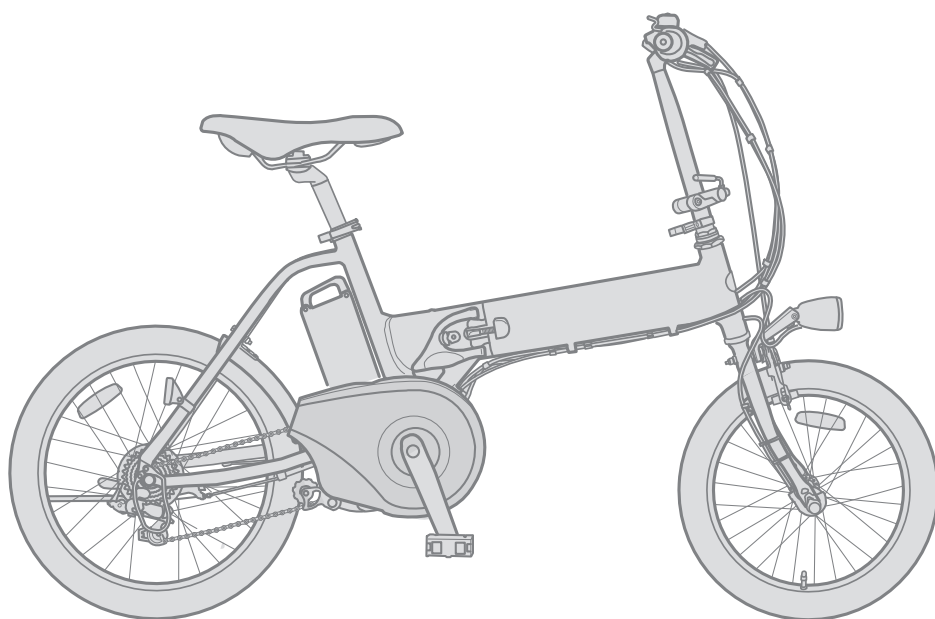


Panasonic®

取扱説明書 電動アシスト自転車

品番

オフタイム BE-ELW075



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用まえに「安全上のご注意」(4 ~ 19 ページ) を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

パナソニックの会員サイト「**CLUB Panasonic**」で「**商品登録**」をお願いします

家電情報をまとめて登録管理
登録商品のサポートも充実

詳しくはこちら
<https://club.panasonic.jp/aiyo/>



はじめに

- この自転車は、一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。
- 必ず、販売店で防犯登録を行ってください（法令で義務付けられています）。

- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書のイラストはイメージ図を使用していますので、一部実車と異なる場合があります。

いつもの街や道を、より軽快に走り抜く。
通勤がもっと、楽しくなる瞬間へ。

こぎ出し 軽やか

信号や一時停止からの
発進、急な坂道で
アシスト力を発揮。

なめらかな 走行感

3つのセンサーで
アシスト力を調整し、
加速をなめらかに。

エコナビで アシスト持続

ムダな消費電力を抑えて、
アシスト走行距離を
伸ばします。

電動アシストが 切れても安心

電動アシストが切れても
昼間は普通の自転車とし
て走ることができます。

もくじ

ご使用のまえに

安全上のご注意	4
使用上のお願い	20
各部のなまえとはたらき	22
付属品	23
乗るまえの準備〈組み立て手順〉	26

乗るまえに

乗るまえの点検と調整	29
充電しましょう	38
バッテリーの残量について	42

乗りかた

さあ、乗りましょう！	44
ブレーキのかけかた	46
変速のしかた	46
アシストの強さを変える	48
液晶表示の切替について	49
走行できる距離の目安	50

乗り終わったら

駐輪・施錠のしかた	53
駐輪場をご使用になるときは	54
乗ったあとは〈折りたたみ手順〉	55

必要なとき

お手入れについて	59	別売品（アクセサリ）	70
注油について	60	定期点検について	71
運搬／保管／廃棄について	61	自転車安全基準／BAAマーク／ 点検整備済TSマークのご紹介	72
故障かな？	62	盗難補償優遇制度について	73
バッテリーについて	66	保証とアフターサービス	75
仕様	68		

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



危険

「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています(次は図記号の例です)。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気を付けていただく内容です。



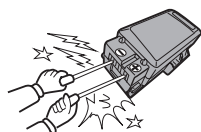
危険

バッテリーについて



禁止

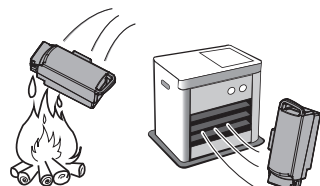
■(+) と(−) を金属などで接触させない



(発熱・発火・破裂の原因)
⇒ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。

■火への投入、加熱をしない
(発熱・発火・破裂の原因)

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない



(発熱・発火・破裂の原因)

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない
(発熱・発火・破裂の原因)



禁止

■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです。この機器と専用アダプターでの接続以外は使用しない

(発熱・発火・破裂の原因)
⇒別売品(70 ページ) の USB 出力アダプターを介しての USB 対応機器への給電は可能です。

■専用の充電器以外は使用しない
(発熱・発火・破裂の原因)

■落下させない
(発熱・発火・破裂の原因)

■再生・リサイクルバッテリーは使用しない
(発熱・発火・破裂の原因)

充電器について



禁止

■当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用は絶対にしない
(バッテリーの液漏れ・発熱・破裂によるけがの原因)



警告

バッテリーについて



禁止

■水を入れたり、水中に投下したりしない

(端子部から水が入ると発熱、発火、破裂の原因)
⇒バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

■傷ついたまま使用しない

(ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれ。また、水の浸入により、発煙・発火のおそれ)

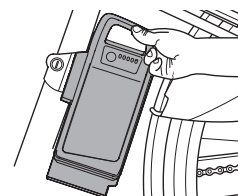
■大雨などで自転車本体(バッテリー部) が水につかった場合、使用しない

(不意にアシストが停止する場合があります、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)
⇒本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検を受けてください。



必ず守る

■確実に自転車に装着されているか確認する



(走行中に脱落下し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。

充電器について



禁止

■電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない

(電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)

■充電中はカバーをしたり、上に物を置いたりしない

(内部が発熱し、火災のおそれ)

■充電中は引火のおそれがあるものを近づけない

(スパークし、火災や爆発の原因)

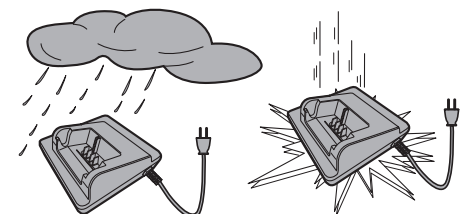
■分解、改造は絶対にしない



(充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれ)

■以下のようなことはしない

- 衝撃を与えること
- 落下
- 水ぬれ
- 高湿度な場所(浴室・洗面所や水がかかる場所)での使用



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒水にぬれた場合には、内部基板に水が浸入していることがありますので、使用しないでください。

安全上のご注意(つづき)



警告

充電器について



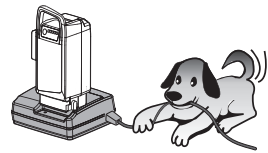
禁止

■充電端子を金属でショートさせたり、ボタン・コイン電池を接触させない



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒充電しないときは、端子カバー(別売品) 70 ページ) をかぶせておくことをお勧めします。

■幼児やペットが触れる所に放置しない



(幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因)

■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)

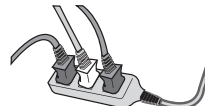


(傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)
⇒電源コードなど単体での修理・交換はできません。電源コードなどが傷んだ場合、販売店にご相談ください。



禁止

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用の交流 100 V 以外での使用はしない



(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因)



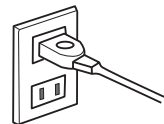
ぬれ手禁止

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない
(感電のおそれ)



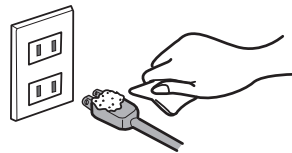
必ず守る

■電源プラグは根元まで確実に差し込む



(接触不良による感電や火災の原因)

■充電端子や電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く



(ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)
⇒電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■充電中に次の異常を感じたら充電を中止する(異音・異臭・煙の発生など)

(火災や爆発の原因)
⇒充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



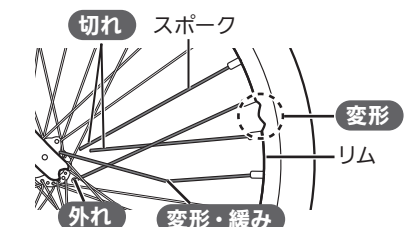
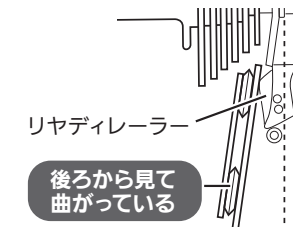
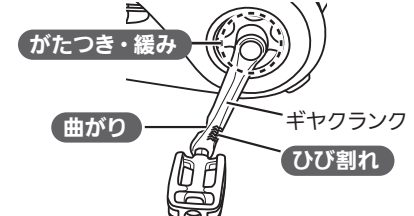
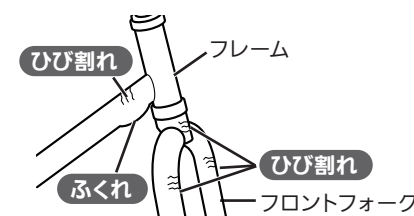
警告

自転車本体について



禁止

■各部にがたつきや緩みおよび、変形・ひび割れなどの異常があるときは乗らない



(折れや固定の緩みにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ひび割れや変形などの異常を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。

⇒フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無い点検してください。

⇒スポークが 1 本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れ・変形・緩みのあるスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

⇒ハンドルやサドルを締め付けてもがたつき・緩み・ずれがあるとき、またハンドルの回転が重い・引っ掛かりがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検してください。

■組立後や調整後の締め付け・固定を確認せずに乗らない

●車輪 / サドル / バッテリーライト / ハンドル / ペダル / フロントフォーク / クランク など

(転倒や部品やものが落下したり、折れによるけがのおそれ)



必ず守る

■次の様なときは外観上異常が無くても販売店で点検を受ける

●車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下をしたとき

●ペダルやクランクに強い衝撃が加わるような衝突や転倒をしたとき

(ブレーキの動作不良、フレーム・フロントフォークの折損や駆動ユニットの異常動作により転倒し、けがのおそれ)

■定期点検の時期以外でも、激しい使用後は常に点検をする(受ける)

(異常や破損によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

自転車本体について



分解禁止

■改造や分解はしない



(部品の破損や、ブレーキが利かなくなつて転倒や衝突によるけがのおそれ)



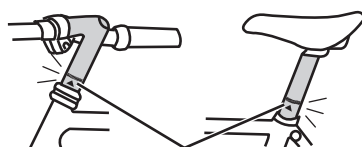
禁止

■回転部(車輪・チェーンなど)に手や足を近づけない

(車輪やチェーンに巻き込まれ、けがのおそれ)

⇒幼児や児童も近づけないようにご注意ください。

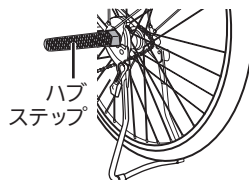
■サドルやハンドルは「はめ合わせ限界標識」が見える状態で乗らない



はめ合わせ限界標識

(シートポストやハンドルステムの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■ハブステップなどの突出物を装着しない

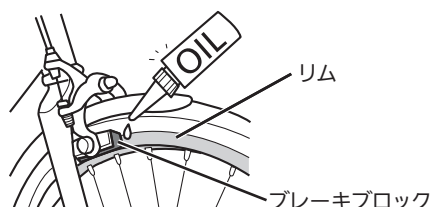


(歩行者などに危害を及ぼすおそれ)



禁止

■注油禁止場所(リムやブレーキブロックのゴム部など)に注油しない



(ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれ)

■リム(アルミリム)に著しい摩耗のあるときは乗らない

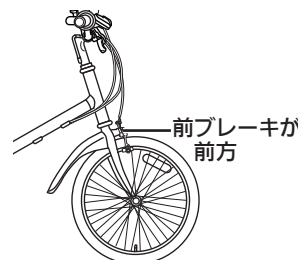


(リムが破損し、転倒によるけがのおそれ)
⇒リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。



必ず守る

■前車輪の方向が正しいか確認する*



前ブレーキが前方



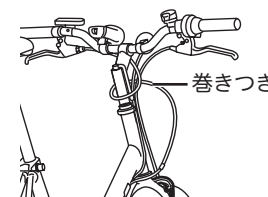
警告

自転車本体について



必ず守る

■ブレーキワイヤや変速ワイヤが、ハンドルステムやフレームに巻きついていないか確認する*



※(ブレーキの利き過ぎまたは、利かなくなり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ブレーキについて



禁止

■前後ブレーキの作動を確認せずに乗らない*

■ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいままで走行しない*

■タイヤやブレーキから異音がある場合は使用しない*

※(ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)

■前ブレーキだけを強くかけない

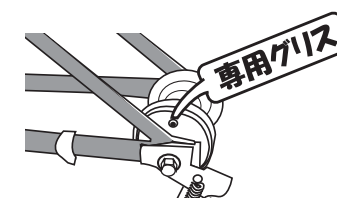
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)

ブレーキについて



禁止

■ローラーブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリス以外は使用しない

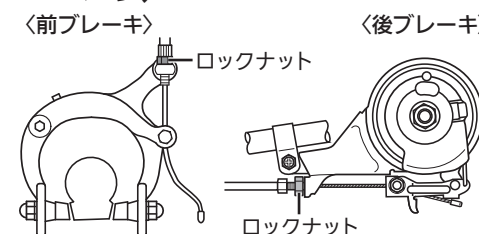


(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番: NBP002)を補給してください。



必ず守る

■前後ブレーキのロックナットは確実に締め付ける(34・34ページ)



(ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

バッテリーライトについて

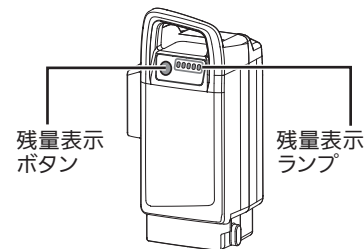


禁止

■ライトの取り付けが緩んだまま、走行しない
(前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒乗るまえに点検してください。

■ライトの光を見続け
(目を痛める原因)

■夜間走行する場合、バッテリー残量が少ない状態のときには乗車しない



(消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれ)

⇒夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。

無灯火での夜間走行は、法令違反になります。

⇒走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯したあと消灯します。

チェーンについて



禁止

■たるんだまま走行しない
(チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、転倒や衝突によるけがの原因)
⇒ご使用を中止し、販売店で調整してください。

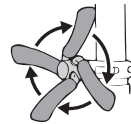
サドルについて



禁止

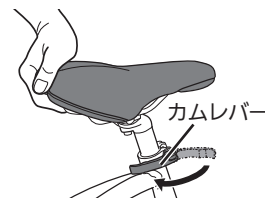
■サドルの上面が傾いたまま走行しない
(サドル固定ボルトが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

■カムレバーを回転させて締め付けない※



必ず守る

■カムレバーは、後方向に確実に閉める※



■乗るまえには、必ずがたつきやずれが無い点検をする※



※(シートポストや舟線が折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

⇒サドルのがたつきやずれがある場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。



警告

荷物を積むときは



禁止

■積載条件(積載質量、積載物の大きさ)から外れる荷物を積まない
(☞ 52 ページ)



(フレームが破損したり、ふらついて転倒によるけがのおそれ)

■リヤキャリアを取り付けない
(フレームが破損し、転倒によるけがのおそれ)

■荷物を載せたまま自転車を押すとき、ハンドルを大きく切ったり、傾けたりしない

(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、荷物の重みで転倒によるけがのおそれ)

⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。



必ず守る

■荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車する

(自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、ブレーキの利きが悪くなることにより、転倒によるけがのおそれ)

自転車を組み立てるときは



禁止

■メインパイプのジョイント部分を持って開閉しない
(指や手を挟んでけがをするおそれ)



必ず守る

■クイックレバーフックをかけて走行する
(転倒によるけがのおそれ)

■固定ナットが奥まで確実にハマっているか確認する
(メインパイプのジョイント部分が開き、転倒によるけがのおそれ)

ハンドルの組み立て



禁止

■ジョイント部分を持ってハンドルを起こさない
(指や手を挟んでけがをするおそれ)

ペダルの組み立て



禁止

■側板と本体の間に指を入れない
(指や手を挟んでけがをするおそれ)

包装の袋などは



禁止

■取扱説明書が入っているポリ袋や、サドルのポリ袋は幼児の手の届く所に置かない
(頭からかぶるなどしたときに、口や鼻をふさぎ窒息するおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

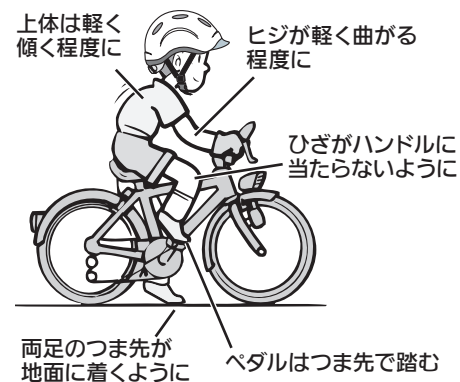
自転車に乗るまえに

！ ■乗るまえの点検は必ず行う※
必ず守る



⇒点検の詳細については 29 ページを参照してください。

■自転車を身体に合わせる※

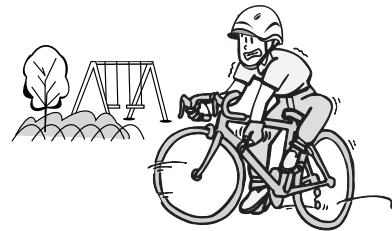


⇒正しい姿勢で乗車できるよう、上図のように販売店で調整してもらってください。

⇒操作して次のことを確認してください。

- ①円滑なペダリングができる。
- ②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
- ③ハンドル操作が容易にできる。

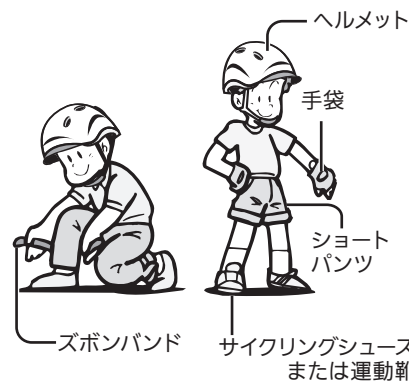
！ ■自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場など)で十分練習する※
必ず守る



⇒よく練習してから一般道路でお乗りください。

⇒電動アシスト自転車の場合、慣れるまでは「ロング」で走行してください(☞ 48 ページ)。

■安全な服装を着用する(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)※



⇒ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っ掛かりなどを防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。

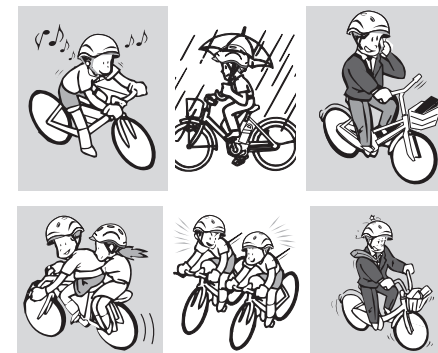
※(衝突や転倒によるけがのおそれ)



警告

自転車の交通安全ルールについて

禁止 ■次の様な運転は絶対にしない※
●ヘッドホンを使用しながらの運転
●飲酒運転 ●傘差し運転
●2人乗り
●携帯電話を操作しながらの運転
●信号無視 ●並進



⇒小学校就学の始期に達するまでの者をチャイルドシートに1人乗せる場合などを除き、2人乗りは禁止です(幼児2人同乗用自転車を除く)。
⇒「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。

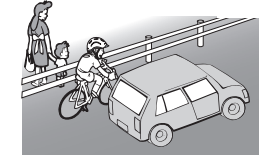
！ ■夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行する※
必ず守る



⇒夜の無灯火での運転は法令違反です。暗い所ではライトをつけて通行しましょう。

⇒見通しが悪くなり、また自動車から見えにくくなりますので危険です。前照灯がつかない場合やリフレクターが破損したり汚れているときは、押して歩いてください。

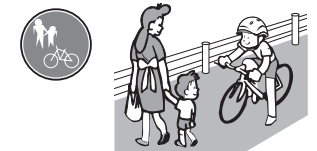
！ ■自転車は、車道を通行する※
必ず守る



⇒歩道と車道の区別のある所は、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう(路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます)。

⇒次の様な場合は、歩道通行ができます。

- 自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合
- 車道や交通の状況から見てやむを得ない場合



⇒歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行してください。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

自転車の交通安全ルールについて



必ず守る

- 保護者は13歳未満の子供が乗車するときは必ずヘルメットを着用させる※



ヘルメット

- 交差点では一時停止と安全確認を行う※



⇒一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認をしてください。

⇒信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

安全に乗るために



禁止

- 走行時ワイヤ錠を車輪の近くやハンドルにぶらさげない

(スポークに巻き込んだり、ハンドルが取られたりし、転倒によるけがのおそれ)

- キーにはキーホルダーやスペアキーを付けたまま乗車しない

(キーホルダーやスペアキーなどが後車輪に巻き込まれ、転倒によるけがのおそれ)



禁止

安全に乗るために

- 安全装置は、取り外さない
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ) (P. 25 ページ)

- 走行中、手元スイッチの操作をしない

(電源の入切、アシストモードの切替、ライトの操作など)

(上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩したり、片手運転になり転倒によるけがのおそれ)

⇒必ず停止して、操作をしてください。

- 停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



(不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれ)

- スピードをだしすぎない



(衝突や転倒、接触事故によるけがのおそれ)



警告

安全に乗るために



禁止

- 発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない



(思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるけがのおそれ)
⇒強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

- 発進時や、きつい上り坂走行時は重い変速位置を選ばない(P. 46 ページ)※

- バッテリー残量が少ない状態(残量表示が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない※



※(アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



禁止

- スタンドを下げた状態で、乗らない(発進しない)

(スタンドが変形・破損して、走行中に引っ掛かりバランスを崩して転倒し、けがをするおそれ)

⇒スタンドを上げてから乗車してください。

- パンクしたままやタイヤの空気圧を確認せずに走行しない

(ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれ)

- けんけん乗り(けり乗り) しない



(転倒や接触事故によるけがのおそれ)
⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。

●けんけん乗り(けり乗り) とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

安全上のご注意(つづき)



警告

安全に乗るために



禁止

変速するときは

■次のような変速はしない

- ペダルを止めたままの変速
- 停止しているときの変速
- ペダルを逆転させながらの変速
- ペダルを強く踏み込みながらの変速
- シフトグリップを無理に操作する変速
- 一度に2段以上する変速
(事故や故障の原因)



必ず守る

■必ずペダルを踏む力を抜いて、ペダルを空転気味に軽く回転させながら変速操作をする

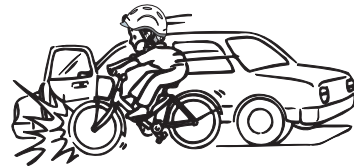
(間違った変速操作をすると以下のような事象により、転倒や衝突によるけがのおそれ
チェーンやギヤの変形 / 変速機の故障 / 歯飛び / チェーン切れ)

交通事故を防ぐために



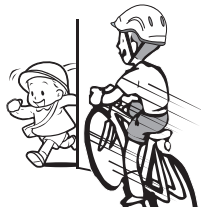
車の横を走るときは!

■開くドアや人の飛び出しに注意する※



学校や公園が近くにあるときは!

■子供の飛び出しに注意する※

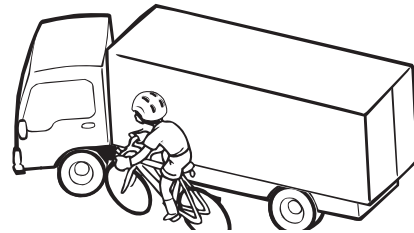


交通事故を防ぐために



交差点を通るときは!

■左折車に巻き込まれないように注意する※



※(事故による重大なけがのおそれ)

自動車や子供に注意!
安全を確認し、乗りましょう



転倒事故を防ぐために



禁止

■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



(転倒によるけがのおそれ)



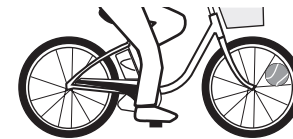
警告

転倒事故を防ぐために



禁止

■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

■傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックやほかの人や物にぶつかり事故や転倒によるけがのおそれ)

■路上の異物を不用意に踏まない※

■車輪の近くに取り付けてある部品の固定が確実であるかを確認せずに乗らない※

■ブレーキをかけたときにブレーキブロックがタイヤに接触していたり、リムからはみ出していないかを確認せずに乗らない※

※(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックによる転倒や、ほかの人や物にぶつかって、事故によるけがのおそれ、特に前輪への巻き込みは前転により大きな被害になるおそれ)



禁止

■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



(荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■巻き込みやすいものを車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)



(車輪やギヤに巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

■土踏まずやかかとでペダルを踏まない



(カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



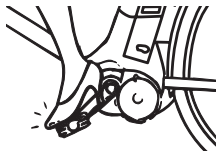
警告

転倒事故を防ぐために



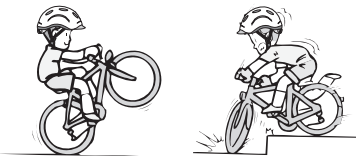
禁止

■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない



(ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれ)

■アクロバット的な乗りかたはしない※
■段差の乗り降りをしてしない※



※(転倒や落車によるけがのおそれ)

■カーブで曲がる側のペダルを下げない



(ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれ)

■合図以外は、ハンドルから手を離さない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



禁止

■雨・風・雪のひどいときは乗らない



(バランスを崩したり、スリップすることで転倒によるけがのおそれ)
⇒雨の降り始めでも、路面の一部がぬれ、滑りやすくなります。乾いた路面からぬれた路面に入るときはスリップによる転倒に注意してください。

■滑りやすい所では乗らない(積雪や凍結した道・ぬれた路面・石板(大理石など)・マンホールや側溝のフタ・路面上の表示(白線など)・タイル張りや点字ブロック・路肩の砂や砂利・ぬかるみなど)



(スリップして、転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

■凹凸の激しい所を走らない(歩道の段差や、溝など)



(フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。



警告

乗ったあとは



禁止

■車体部やハンドル部のジョイント部分を持って折りたたまない
(指や手を挟んでけがをするおそれ)

定期点検は



必ず守る

■定期点検と整備は、異音が生じたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月に1回(初回を除き)実施する

(異常や故障の発見がくれ事故発生によるけがのおそれ)

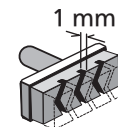
⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

・初回(2か月以内)の点検と整備
お買い上げ2か月頃らいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。

・2回目以降(6か月ごと)の点検と整備
安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

■ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する※

■ブレーキブロックは、溝の残りが、1mmになるまでに交換する※



■ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロック(品番: NBC063FF)に交換する※

※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)
⇒交換は販売店に依頼してください。

定期点検は



必ず守る

■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまでに交換する



(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様(68ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。

⇒交換は販売店に依頼してください。

消耗品を交換するときは



必ず守る

■純正部品を使用する

(純正部品以外の使用で故障や事故発生によるけがのおそれ)

⇒交換はお買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)に依頼してください。

保管するときは



禁止

■不安定な場所に自転車を保管しない
(自転車が動き出したり、風などで自転車が転倒したりして事故につながるおそれ)

運搬するときは



必ず守る

■自転車を運搬するときはバッテリーを外す

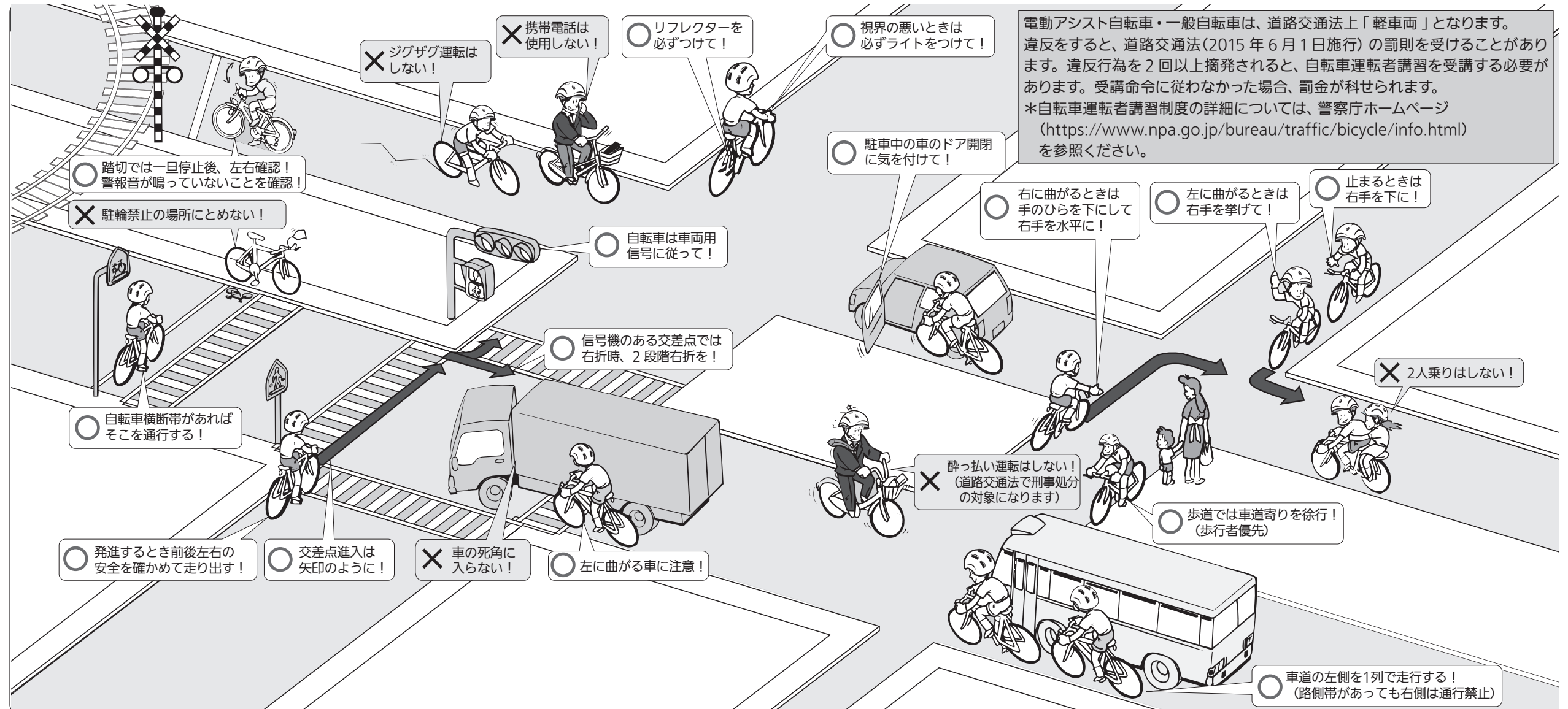
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)

使用上のお願い

必ずお守りください

けがをせずに、ほかの人にも迷惑をかけないために、乗りかた・交通ルール・道路標識を守りましょう。

●安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。●万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
(加入義務化の地域もありますので、ご使用先の自治体にご確認ください)



電動アシスト自転車・一般自転車は、道路交通法上「軽車両」となります。違反をすると、道路交通法(2015年6月1日施行)の罰則を受けることがあります。違反行為を2回以上摘発されると、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合、罰金が科せられます。
*自転車運転者講習制度の詳細については、警察庁ホームページ(<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html>)を参照ください。

自転車運転者講習の対象となる危険行為

- 信号無視
- 指定場所一時不停止等
- 酒酔い運転
- 歩道通行時の通行方法違反
- 遮断踏切立入り
- 制動装置(ブレーキ)不良自転車運転
- 通行禁止違反
- 交差点安全進行義務違反等
- 通行区分違反
- 歩行者用道路における車両の義務違反(徐行違反)
- 交差点優先車妨害等
- 安全運転義務違反
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 妨害運転(交通の危険のおそれ)

自転車安全利用五則

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
 2. 車道は左側を通行
 3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
 4. 安全ルールを守る
 5. 子供はヘルメットを着用
- 飲酒運転・2人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認

乗ったあとは

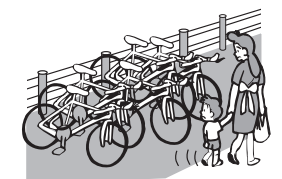
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、ほかの人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
- 盗難防止のため、必ずかぎをかけましょう。
- 付属のワイヤ錠は盗難予防に絶対的なものではありません。U字ロックを併用するなど、二重施錠をお勧めします。



自転車放置禁止

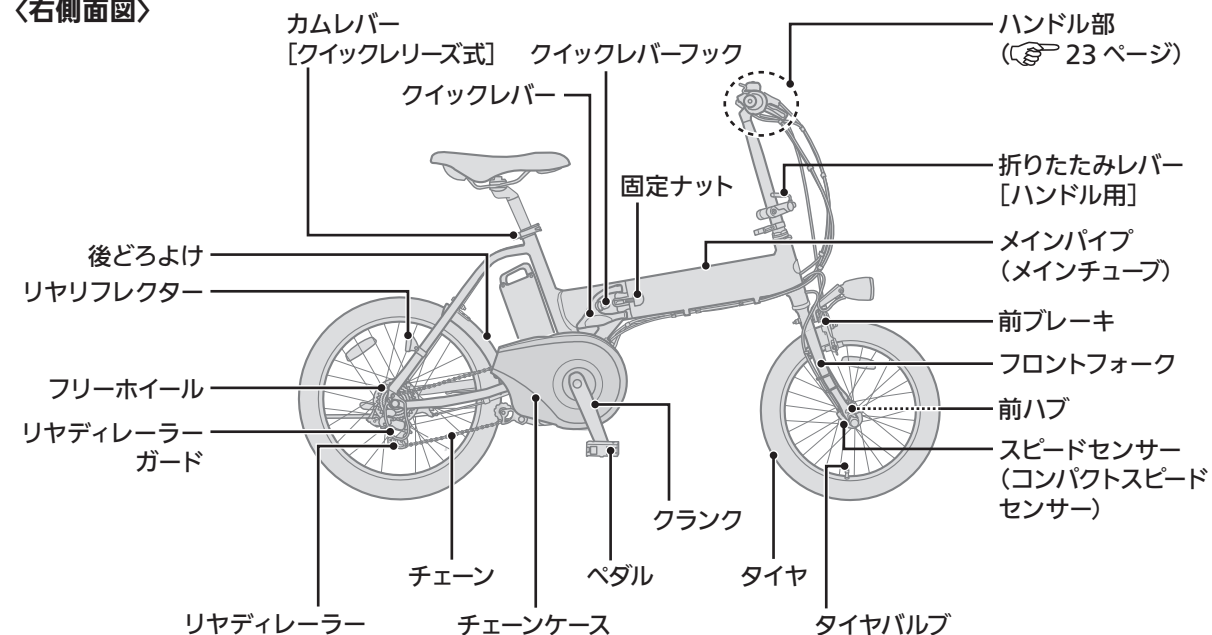
- 自転車の放置は、ほかの人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対にやめましょう。



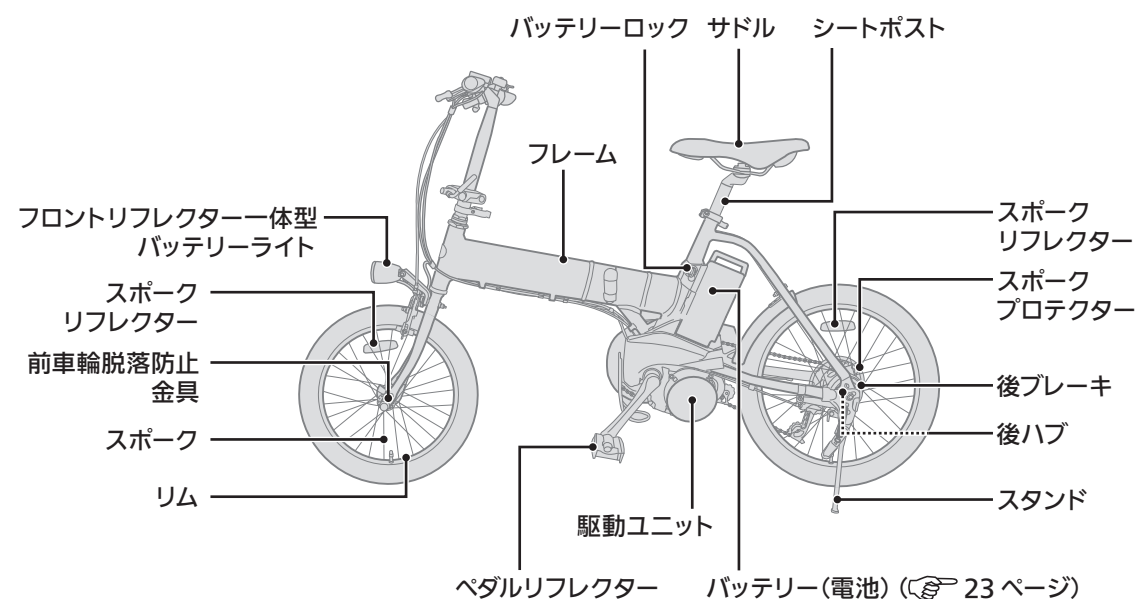
各部のなまえとはたらき

■自転車本体

〈右側面図〉



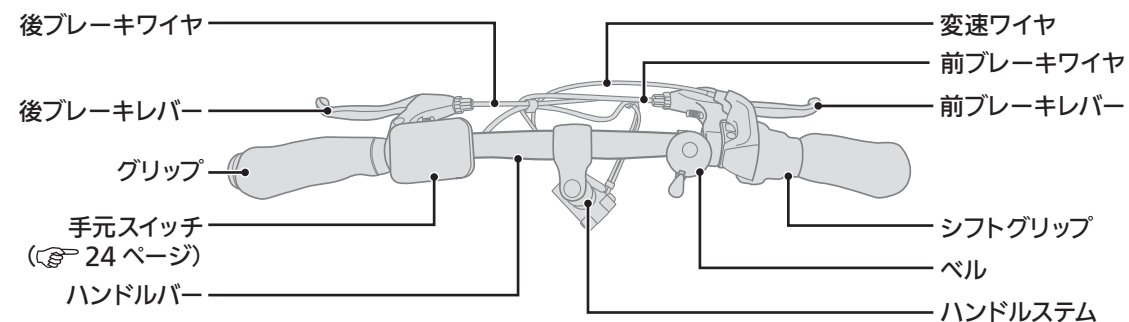
〈左側面図〉



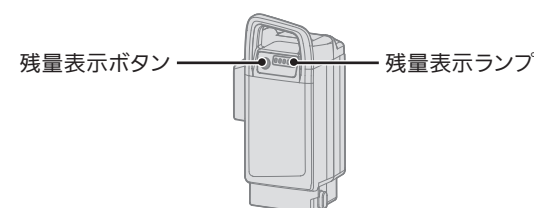
お願い

- 補強金具は取り外さないでください。

■ハンドル部



■バッテリー



お願い

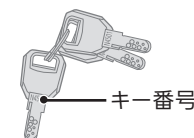
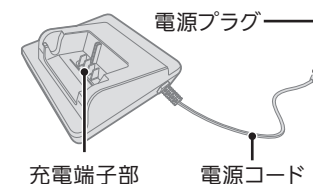
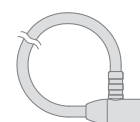
- 残量表示ランプ部と意匠マーク部の保護フィルムをはがしてご使用ください。

■付属品

自転車本体のほかに、下記のものがすべて含まれていることをご確認ください。

- 取扱説明書(本書)
- 商品登録はがき
- 保証書
- ワイヤ錠
- 締め付けバンド(3本)
- キー(3本)
バッテリーロックと、ワイヤ錠の両方に使用します。

●充電器



〈スペアキーの購入方法〉

キーを紛失された場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。その際には、保証書とキー番号が必要です、必ずご持参ください。

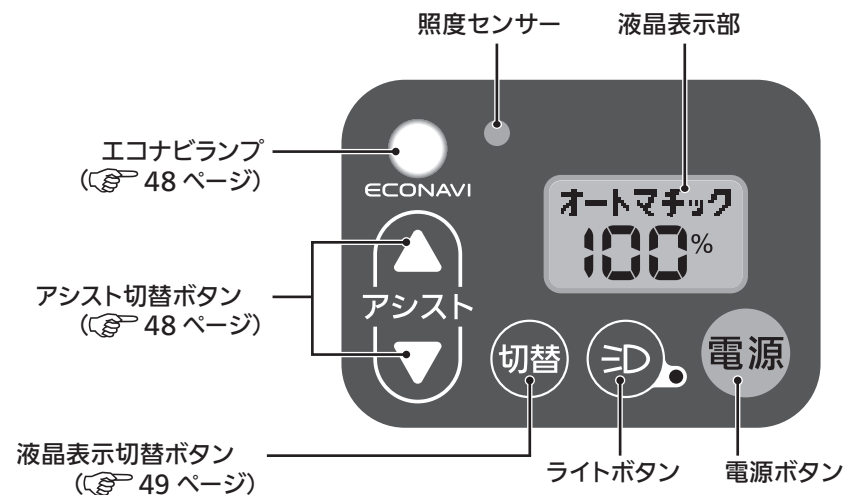
お願い

- キーは紛失しないよう大切に保管し、キー番号は控えておいてください(75 ページのキー番号欄に記入しておかれることをお勧めします)。キー番号は、キー本体と保証書に記載されています。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■手元スイッチ(エコナビ液晶スイッチ 4SL)

バッテリーライトの入切や、アシストの強さ(48 ページ)を変更できます。
バッテリー残量も確認することができます(43、49 ページ)。



・電源ボタンを「入」にすると、液晶表示部のバックライトが常に点灯し、表示が見やすくなります。

バッテリーライトの点灯について

電源が『入』の状態では周囲が暗くなると、照度センサーが働き自動で点灯します(オートライト機能)。明るくなると、自動で消灯します。

- ・電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動で消灯します。
- ・ライトボタンを操作すると、オートライト機能は働きません。
- ・手元スイッチの取り付け状態やご使用の周囲環境によって、意図しない点灯・消灯をする場合があります。必要に応じて、手動操作での点灯・消灯の切替をご使用ください。

お知らせ

- アシストがなくなっても、バッテリーライトは点灯します。しばらくするとゆっくり点滅してから消灯しますので、点滅状態になったら、夜間やトンネル内、視界の悪いときは、降りて押してください。
- 電源ボタンが点灯していても、液晶表示部に「アシストナシ」と表示されるときは、アシストは働きません。アシストを動作させたい場合は、電源ボタンを押して電源を ON にしてください。

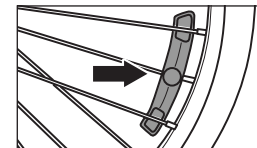
〈手動で点灯・消灯したいとき〉

手元スイッチのライトボタンを押すと、電源の入切に関係なく、バッテリーライトを点灯・消灯することができます。

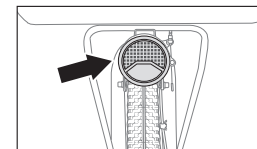


■安全装置

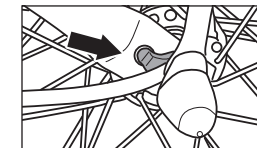
スポークリフレクター



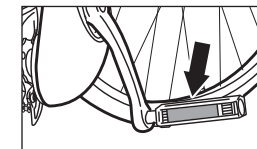
フロントリフレクター



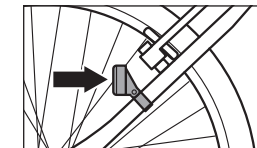
前車輪脱落防止金具



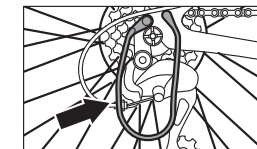
ペダルリフレクター



リヤリフレクター



リヤディレーラーガード



お願い

- リフレクターが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。
(破損したままでの夜間走行は、法令違反になります)
- リフレクターが汚れているときは、必ず汚れをふき取ってください。



警告

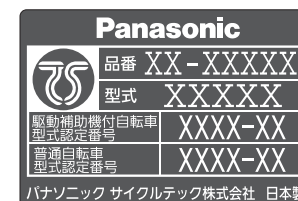


禁止

■安全装置は取り外さない
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)

■品番および型式認定済 TS マーク(保険無し)

- この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にだけ表示することができるもので、法令の基準に適合することを明らかにするものです。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。保険付き TS マークについては 72 ページを参照ください。

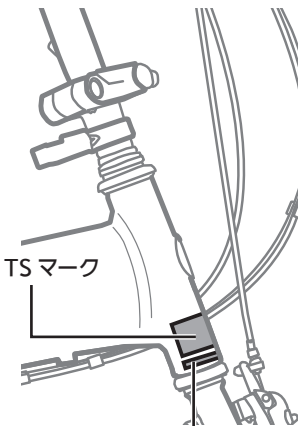


車種品番

お願い

- マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。

型式認定済 TS マーク

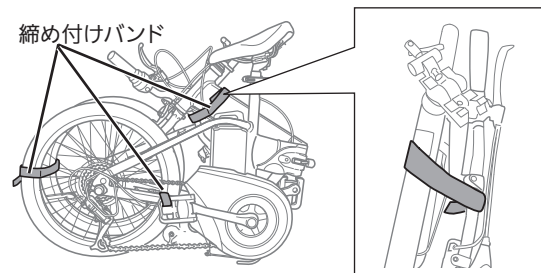


■車体番号(刻印位置)

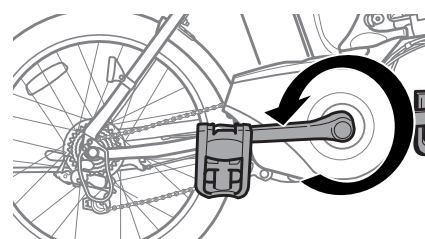
防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。

1. 車両本体(車体部)を組み立てる

① 締め付けバンドを外す



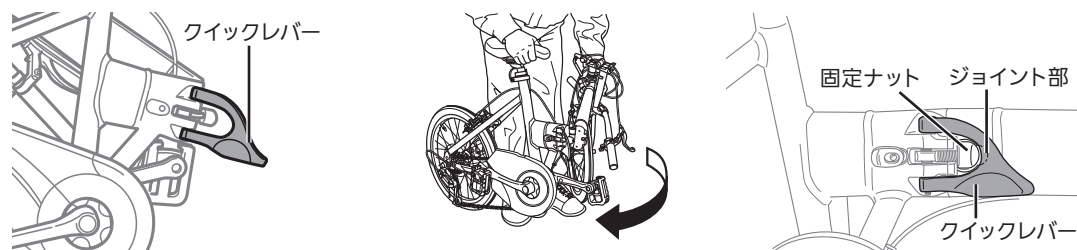
② 右側のペダルが後方になっているか確認する



お知らせ

●右側ペダルが後方に無いと、折りたたみや組み立てができない、あるいはフレームに当たってキズが付くおそれがあります。右側ペダルを後方に回せない場合は、先にハンドルをを起こしてください(27 ページ)。

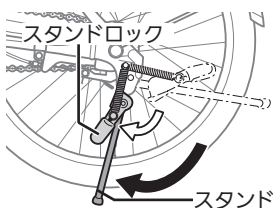
③ クイックレバーが進行方向(前方)にあることを確認し、2 つ折りになっている自転車を開く ・固定ナットがジョイント部へ入り込み、仮固定します。



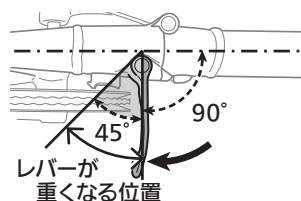
お知らせ

●クイックレバーが進行方向(前方)に向いていると、ジョイント部へ固定ナットが入りやすくなります。

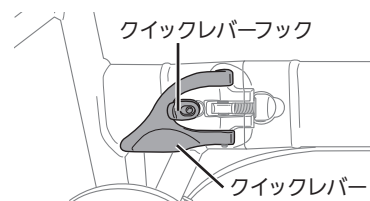
④ スタンドを立てる



⑤ クイックレバーを後方へ回転させる



⑥ クイックレバーをクイックレバーフックに引っ掛かるまで、確実に閉める

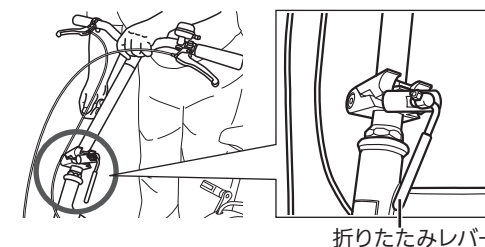


お願い

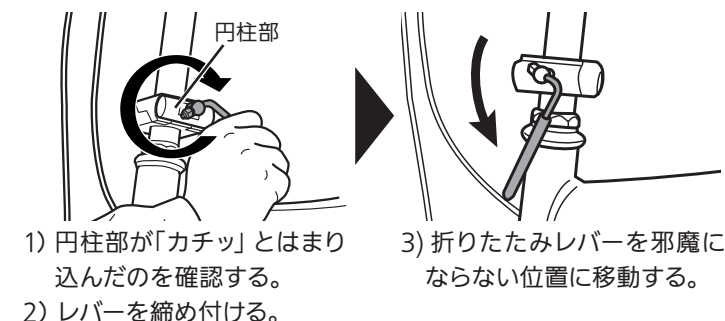
●クイックレバーの回転が、フレームと直角(90°)の位置にくるまでに重くなる場合や、後方 45° の位置を越えても手ごたえが無い場合は、販売店に固定ナットの調整をご依頼ください。
●組み立て後は、クイックレバーにクイックレバーフックが確実に引っ掛かり、クイックレバーが動かないことを確認してください。

2. ハンドルを組み立てる

① ハンドルを起こす(折りたたみレバーのねじは緩めておいてください)



② 折りたたみレバーは、時計方向に締め付けたあと、邪魔にならない位置に移動する(レバー先端に約 150 N{15 kgf} の力で締め付けてください)



お願い

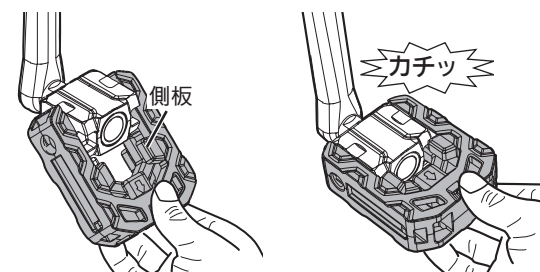
●組み立て後は、ハンドルが確実に固定され、がたつきが無いことを確認してください。
●上記のトルクでハンドルステムは十分固定されます。レバーを締めすぎないでください(折りたたみ部が破損するおそれ)。

お知らせ

●ハンドルの高さは調整できません。

3. 左右のペダルを組み立てる

① 側板に手を添えて、水平に「カチッ」と音がするまで持ち上げる

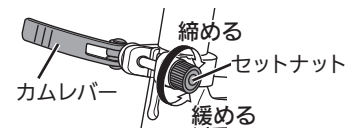


注意

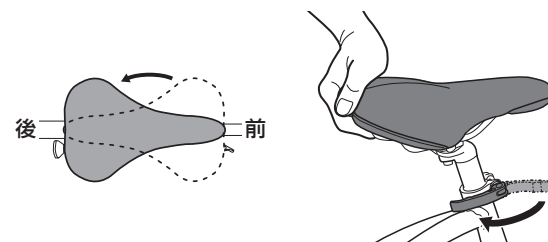
●側板の外側を持って作業する
(手や指を挟んでけがをするおそれ)
必ず守る

4. シートピンの初期調整をする

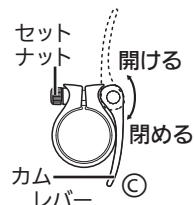
①セットナットを回転させ、固定の強さを調整する



②サドルを前方に回転させ、カムレバーを回転させずに、開閉によって締め付ける



- ・カムレバーが、○の位置でシートポストの固定が緩い場合
- (1) カムレバーを開ける
- (2) セットナットを 1/2 ～ 1 回転締め込む
- (3) カムレバーを○の位置まで閉める



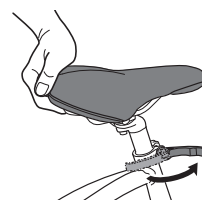
お願い

- カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に 150 N{15 kgf} 程度の力で閉じられるようにセットナットを調整してください。

⚠ 注意



■カムレバーを開けるときは、サドルを支え持つ
(サドルが落下し、手や指を挟んでけがをするおそれ)



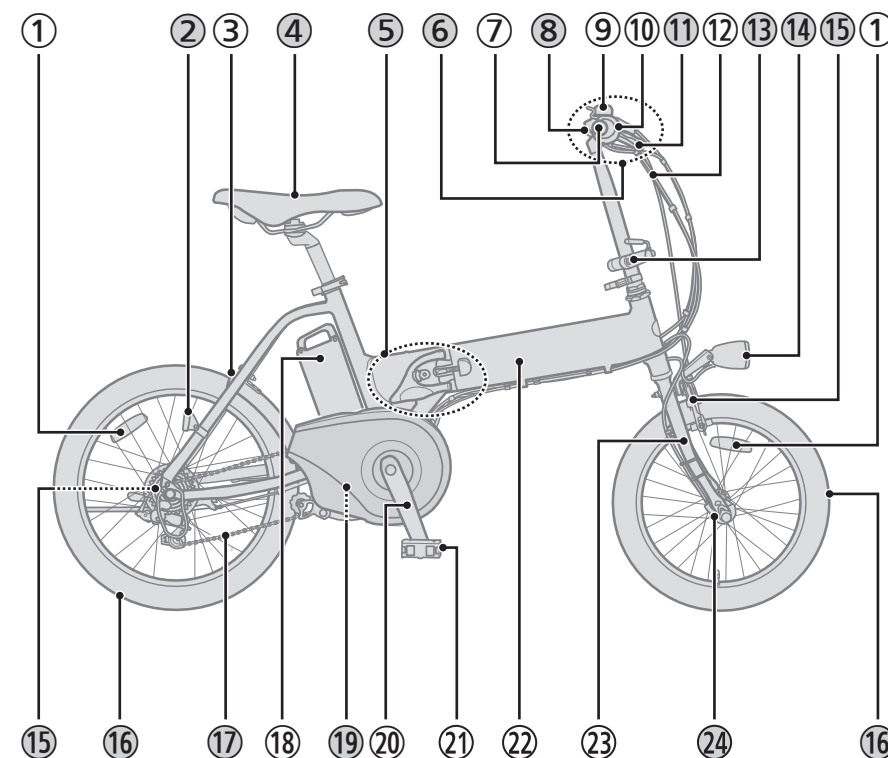
5. フロントリフレクター一体型バッテリーライトの調整確認をする (👉 35 ページ)

乗るまえの点検と調整

安全にご乗車いただくため、乗るまえに点検と調整を実施する習慣を付けましょう。

お願い

- 点検と調整は電源を切った状態で行ってください。
- 未組立、未調整および調整不良の自転車は使用しないでください。
- わからないときは、販売店にご相談ください。



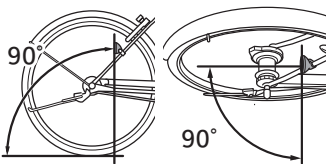
点検箇所	点検内容
① スポークリフレクター〈前・後〉	☐ 割れやがたつきは無い？
② リヤリフレクター	(👉 31 ページ)
③ どろよけ	☐ がたつきや外れは無い？ ☐ タイヤに当たっていない？ ☐ 曲がりは無い？
④ サドル	(👉 31 ページ)
⑤ ジョイント部	(👉 32 ページ)
⑥ ハンドル部	(👉 32 ページ)

乗るまえの点検と調整(つづき)

点検箇所	点検内容
⑦ グリップ〈左・右〉	☐ ひび割れは無いかな？ ☐ 抜けは無いかな？ ☐ 回らないかな？
⑧ 手元スイッチ	(☞ 33 ページ)
⑨ ベル	☐ よく鳴るかな？ ☐ 固定は確実かな？
⑩ シフトグリップ	☐ スムーズに変速できるかな？
⑪ ブレーキレバー〈左・右〉	(☞ 33 ページ)
⑫ ワイヤ類(ブレーキ・変速機など)	☐ たるみ・さび・固着・断線や損傷が無いかな？
⑬ ハンドル折りたたみ部	(☞ 35 ページ)
⑭ フロントリフレクター一体型 バッテリーライト	(☞ 35 ページ)
⑮ ブレーキ〈前・後〉	(☞ 33 ページ)
⑯ 車輪部〈前・後〉	(☞ 36 ページ)
⑰ チェーン	(☞ 36 ページ)
⑱ バッテリー	残量表示ボタンを押したとき ☐ 残量表示ランプが点灯するか？(☞ 42 ページ) 外観を見て ☐ ケースにひび割れや変形、ねじの緩みなどは無いかな？ ☐ 端子部が汚れていないかな？ 車体に装着してみて ☐ しっかりと車体にはまっているかな？(☞ 40 ページ)
⑲ 駆動ユニット	(☞ 37 ページ)
⑳ ペダル・クランク	☐ がたつきは無いかな？ ☐ ひび割れや曲がりはないかな？
㉑ ペダルリフレクター	☐ 割れやがたつき、汚れは無いかな？
㉒ フレーム	☐ ひび割れや変形は無いかな？ ☐ ワイヤ類が巻きついていないかな？
㉓ フロントフォーク	☐ ひび割れや変形は無いかな？
㉔ スピードセンサー	(☞ 37 ページ)

② リヤリフレクター

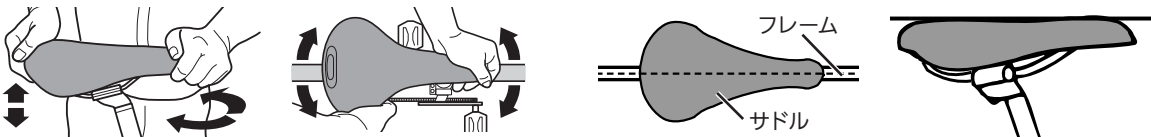
- ☐ 割れや、汚れは無いかな？
- ☐ 反射面の角度は適切かな？



＜お手入れについて＞
レンズに付いた汚れはこまめにふき取ってください。
レンズの汚れがひどい場合は、水もしくは薄めた中性洗剤を浸み込ませた布でふき取ってください。

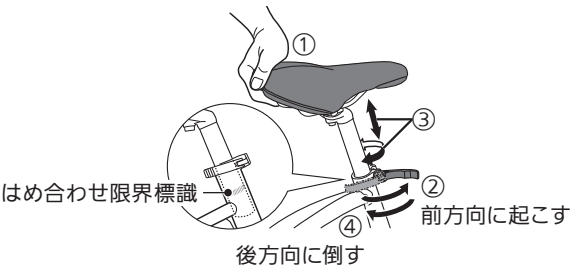
④ サドル

- ☐ 両足のつま先が地面に着くかな？
- ☐ サドル・シートポストの固定は確実かな？
- ☐ 上下・左右交互に強い力を加え、がたつきやずれが無いかな？
- ☐ サドルがフレームと平行になっているかな？
- ☐ サドルの上面と地面が平行になっているかな？

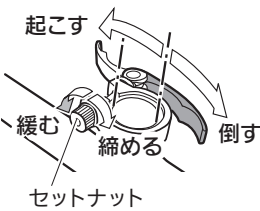


＜サドルの高さと向きの調整＞

- ① サドルを支え持つ
- ② カムレバーを前方向に起こす
- ③ サドルの高さと向きを調整する
- ④ カムレバーを後方向に倒す



カムレバーを後方向に倒してもサドルが固定できないときは、カムレバーを前方向に起こし、セットナットを締める方向に0.5～1回転回してください。再度、カムレバーを後方向に倒し、サドルが固定されていることを確認ください。



お願い

- カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に150 N{15 kgf}程度の力で閉じられるようにセットナットを調整してください。
- さび付きを防止するために、シートポスト(立パイプに挿入されている部分)に、薄くグリスを塗ってください。
- サドル上面が傾いたままご使用されますと、サドル固定ボルトが折れる場合があります。正しく調整してください。
- 角度の調整は販売店にご依頼ください。

お知らせ

- サドル抜け防止機構を装備していますので、はめ合わせ限界標識は確認できません(はめ合わせ限界標識が見える状態で使用するとシートポストが折れてけがをするおそれがあります)。

乗るまえの点検と調整(つづき)

⑤ ジョイント部

- ☐ がたつきが無いのか？
- ☐ クイックレバーは、クイックレバーフックに引っ掛かっているか？

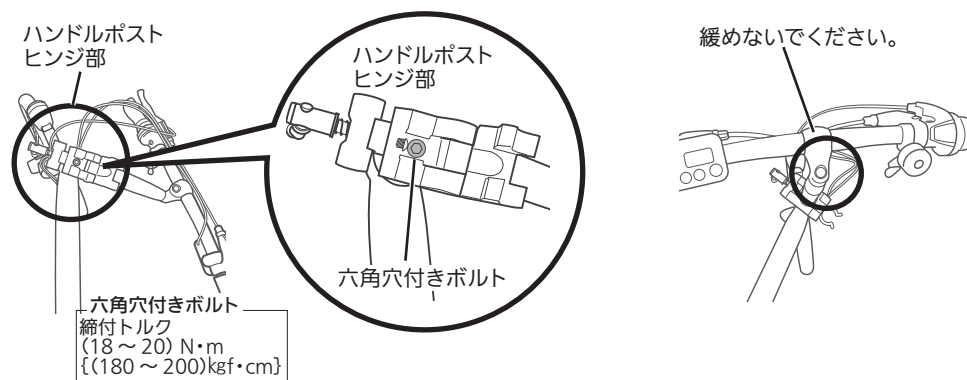


⑥ ハンドル部(調整は販売店にご依頼ください)

- ☐ ハンドルの固定は確実か？
- ☐ ハンドルの回転はスムーズか？
- ☐ ハンドルが 360 度回転していないか？
- ☐ 左右に強く力を加えても動かないか？
- ☐ ハンドルが左右方向に 60 度以上回転するか？
- ☐ ハンドルが前輪に対して直角か？

〈ハンドルの向き調整と固定〉

- ①ハンドルを折りたたむ
- ②ハンドルヒンジ部の六角穴付きボルトを反時計方向に 2 回転して緩める。
- ③ハンドルステムの固定が解除できたらハンドルが前輪と直角になるように調整して再度締め付ける
※ 六角穴付きボルトを 2 回転緩めてもハンドルステムの固定が解除しづらい場合は、六角穴付きボルトに六角レンチを差し込んだ状態でハンマーでたたきなどして、六角穴付きボルトに衝撃を与えて固定を解除してください。
※ 六角穴付きボルトを直接たたかないでください。変形する可能性があります。



お願い

- 六角穴付きボルトを緩めすぎるとハンドルステムの中の引き上げうすが落ちてしまいますので注意してください。もし、引き上げうすが落ちてしまったときは、ハンドルステムを抜いて自転車を逆さまにし、引き上げうすを取り出してください。
- ハンドルステム上部(ハンドルクランプ部分)にある六角穴ボルトは決して緩めないでください。

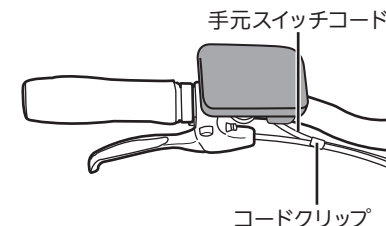
お知らせ

- ハンドルの高さ調整はできません。

⑧ 手元スイッチ

外観を見て

- ☐ ケースや操作スイッチ部にひび割れなどが無いのか？
- ☐ スタンドを上げて、ハンドルを回転させたとき、手元スイッチコードが突っ張っていないか？
- ☐ コードに断線や損傷は無いのか？
- ☐ コードクリップは外れていないか？



電源を入れたとき

- ☐ 液晶表示部に「888」が表示されるか？(☞ 44 ページ)
- ☐ ライトボタンを押して、ライトは点灯するか？(☞ 24 ページ)

⑪ ブレーキレバー ⑮ ブレーキ(調整は販売店にご依頼ください)

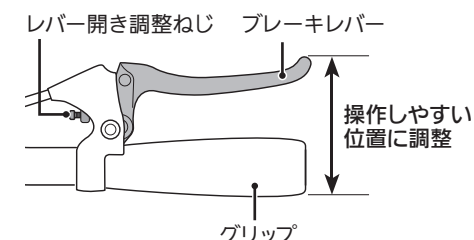
ブレーキレバー(左右)

- ☐ ブレーキの利きは良いか？
- ☐ ブレーキワイヤのさびやほつれは無いのか？
- ☐ 左右ブレーキレバーの取り付け部を押して動いたりしないか？

- ☐ 開き・引きしろは適正か？
- ☐ 操作したときに動作は円滑か？
- ☐ ブレーキの引きずり※は無いのか？
※ブレーキの引きずりとは、ブレーキをかけていないのにブレーキがかかってしまう状態のことです。

〈ブレーキレバーの開き調整〉

- ①ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回す
- ②操作しやすい位置(ブレーキレバーを引く指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する

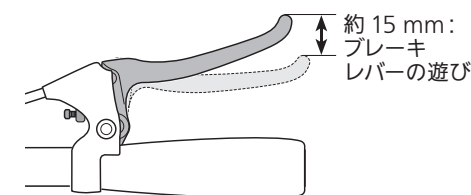


お願い

- ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は、遊びを少なくして再調整してください。

〈ブレーキレバーの引きしろ調整〉

ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをブレーキ調整ねじで調整する。



お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください(電源を入れずに行ってください)。

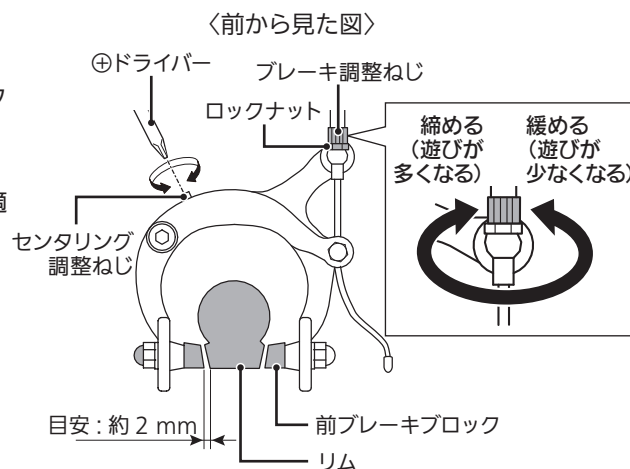
乗るまえの点検と調整(つづき)

前ブレーキ(ブレーキブロック)

- ☐ すりへっていないか？
- ☐ 固定は確実か？
- ☐ 横から見てリムと平行になっているか？
- ☐ 異物は付いていないか？
- ☐ タイヤに当たっていないか？

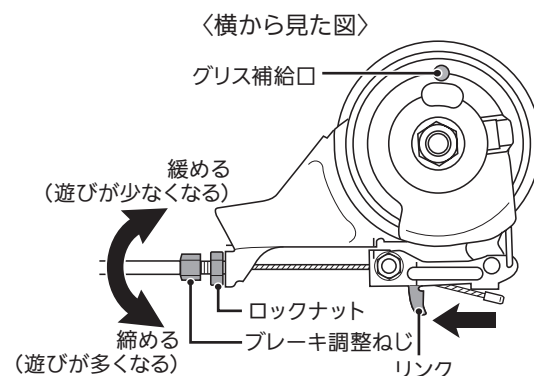
〈前ブレーキの調整〉

- ①ロックナットを緩める
- ②ブレーキ調整ねじを回す
- ③センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する
- ④走行してブレーキの利きを確認する
- ⑤ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける
締付トルク：(1～2) N・m{(10～20)kgf・cm}



〈後ブレーキの調整〉

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める
- ②リンクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す
- ③走行してブレーキの利きを確認する
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける
締付トルク：(1～2) N・m{(10～20)kgf・cm}



お願い

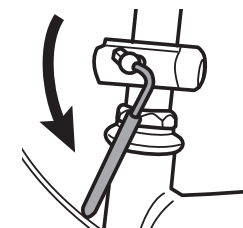
- 確実な制動力を得るために、通常 1 ～ 2 年に 1 回程度は販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番：NBP002)を補給してください。
- ブレーキ調整が不適切な場合、ブレーキが利き過ぎたり、逆に利かなかったりすることがあります。また、使用によるなじみや摩耗で、ブレーキの利き具合が変わります。ブレーキが利きにくい場合は、販売店で点検を受けてください。

お知らせ

- 2013 年 12 月 1 日より、制動装置(ブレーキ)に不備のある自転車と認められる自転車が運転されているときは警察官が停止させ検査ができるようになりました。停止や検査を拒んだり、運転継続禁止命令に従わなかった場合は罰金が科せられる場合があります。

⑬ ハンドル折りたたみ部

- ☐ がたつきが無い？
- ☐ ハンドル折りたたみレバーは下がっている？



⑭ フロントリフレクター一体型バッテリーライト

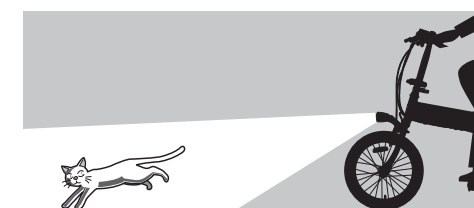
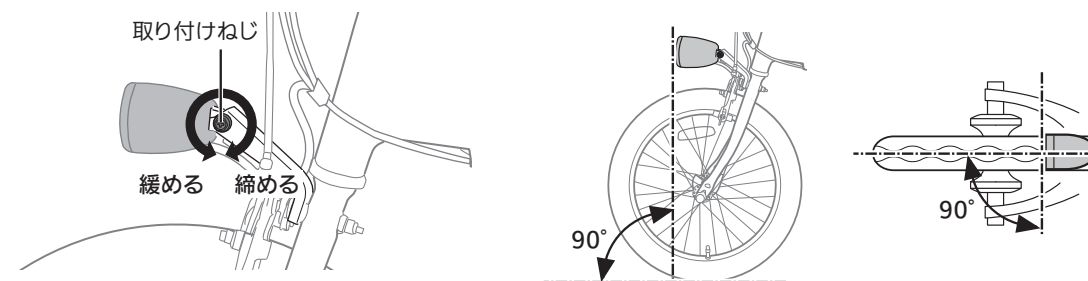
- ☐ 点灯するか？
- ☐ 取り付け角度は適切か？
- ☐ 割れやがたつき、汚れは無い？
- ☐ コードにたるみ・断線・損傷は無い？
- ☐ 反射面が地面および前車輪に対して直角になっている？

〈ライトの角度〉

フロントリフレクター反射面を地面に対して垂直になるように調整をすると、ライト照射角度も適正になります。

使用工具：スパナ(10 mm) またはボックスレンチ(10 mm)

締付トルク：(6～7) N・m{(60～70)kgf・cm}



前方の路面を照らすように
取り付ける

お願い

- 対向者(車)にまぶしくならない角度に調整してください。

お知らせ

- 内部の LED は、基板直付けのため交換できません。

乗るまえの点検と調整(つづき)

⑩ 車輪部〈前・後〉

タイヤ・リム・スポークについて

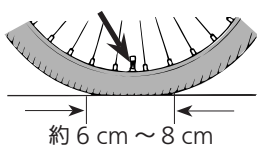
- ☐ タイヤに摩耗・切傷は無いかな？
- ☐ 車輪の固定は確実かな？
- ☐ タイヤに異物は付いていないかな？
- ☐ スポークに曲がり・切れ・緩みは無いかな？

- ☐ 空気圧は適正かな？
- ☐ リムに振れ、変形は無いかな？
- ☐ リム(アルミリム)が摩耗し、リム交換マークが消えていないかな？

ブレーキブロック



タイヤバルブ(英式)



〈タイヤの適正な空気圧〉

自転車に乗った状態での適正な接地部の長さは、右図のとおりです。

お願い

- 圧力計の付いたポンプで空気を入れる場合は、(300 ~ 400) kPa{(3.0 ~ 4.0)kgf/cm²}の数値内になるように入れてください。圧力計の無いポンプで空気を入れる場合は上記イラストの接地部の長さを参考にしてください。
- タイヤの空気圧は 300kPa{3.0 kgf/cm²} 未満では使用しないでください。
タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
- 上記の空気圧は体重 65 kg 程度の方が乗車された場合の適正な空気圧です。重い荷物を載せて走行する場合は、通常より高い空気圧(400 ~ 450) kPa{(4.0 ~ 4.5)kgf/cm²}にて使用してください。
- タイヤにガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐにふき取ってください。
- リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。
- タイヤはストーブなどの熱源の近くに置かないでください。

お知らせ

- 長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- ブレーキをかけることによりリム表面は摩耗します。

⑪ チェーン(調整は販売店にご依頼ください)

- ☐ 空回りしないかな？
- ☐ 小石などが挟まってないかな？
- ☐ 歯飛びや異常な音(バリバリ音など)は無いかな？
- ☐ 油切れはしていないかな？
- ☐ たるみが大きくないかな？
- ☐ さびていないかな？
- ☐ チェーンケースに接触していないかな？

〈チェーンのたるみについて〉

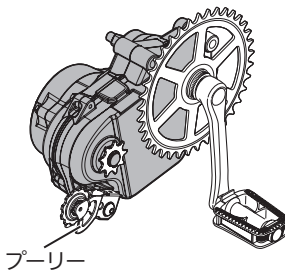
走行中、チェーンの周りから異常な音がする場合は、チェーンが伸びているか、ギヤが摩耗しているときがあります。販売店に点検・調整・交換をご依頼ください。

お願い

- チェーンを交換する際は、必ず純正チェーン(当社品番 : NGC790) を使用してください。

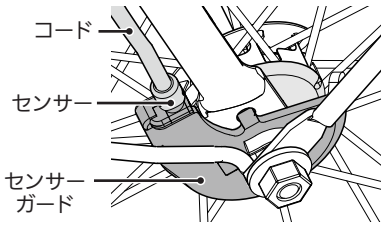
⑫ 駆動ユニット

- ☐ 駆動ユニットがフレームに対してがたついていないかな？
- ☐ プーリーは円滑に動作するか？



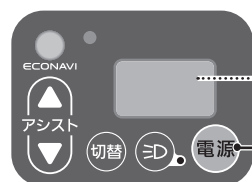
⑬ スピードセンサー(調整は販売店にご依頼ください)

- ☐ センサーの固定は確実かな？
- ☐ コードに断線や損傷は無いかな？
- ☐ コードはしっかり固定されているかな？
- ☐ 車輪を回転させたときに、異常は無いかな？



充電しましょう

1. 電源ボタンを押して電源を切る



液晶表示部
が全消灯

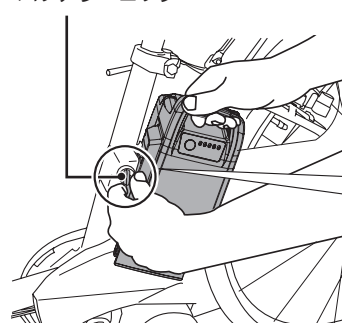
電源ボタン

お知らせ

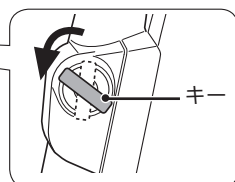
- 電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

2. バッテリーロックを外し、バッテリーを取り外す

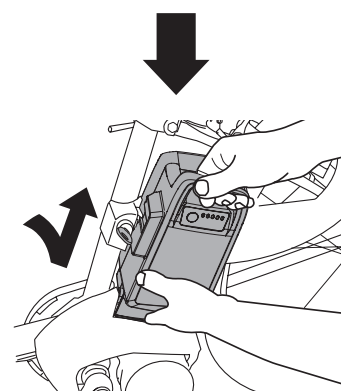
バッテリーロック



- ① バッテリーロックにキーを差す
- ② バッテリーを支えながら、キーを反時計方向に止まるまで回しロックを解除する
・キーは解錠状態のまま固定できます。



- ③ バッテリーを両手で支えながら、引き上げて外す
- ④ キーを時計回りに止まるまで戻してから、引き抜く



注意

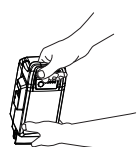


■バッテリーを幼児の手の届く所に置かない※



必ず守る

■バッテリーを支えてからキーを回す※
■バッテリーは両手で扱う※

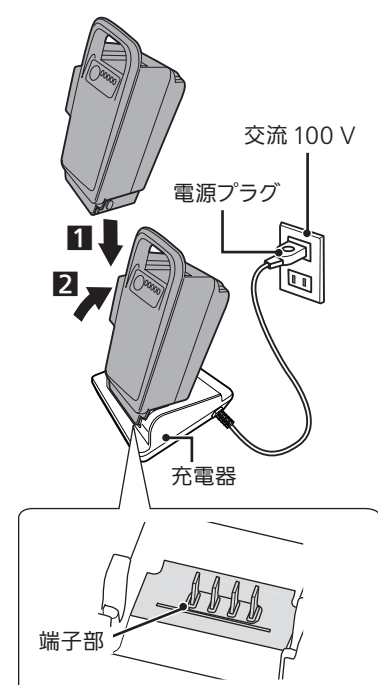


※(落下して、けがをするおそれ)

お願い

- バッテリーを取り外したあとは、キーを抜いて保管してください。

3. バッテリーを充電器にセットする



- ① 電源プラグをコンセント(交流 100 V) に差し込む
- ② バッテリーを上から入れ(1の方向)、奥に倒す(2の方向)
・バッテリーの残量状態が表示(42 ページ) されて、充電が始まります。充電が完了すると、残量表示ランプは消灯します。

残量表示ランプ



充電中



充電完了

※充電時間の目安は仕様(68 ページ) をご覧ください。

注意



■寝ているそばでは充電しない※
■充電中は長時間、充電器・バッテリーの同じ場所に触れない※
※(低温やけどのおそれ)

■熱に弱い床材などの上で充電はしない
(床材などの変色等のおそれ)

⇒充電する場合は断熱材等で床などを保護してください。

お願い

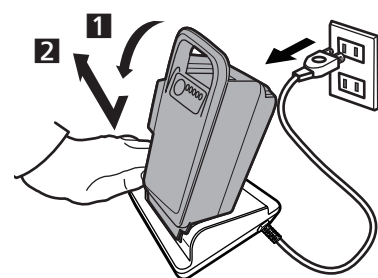
- 白木や畳、塩化ビニール(プラスチックシート貼りの材料)、プラスチックなどの熱に弱い材質の上でご使用の場合は、断熱のためのシート(耐熱温度 100℃以上) をお使いください。
耐熱性の低いシートを使用しますと、本体の熱によりシートが溶けて本体や床等に固着したり、本体や床材等を痛める原因となりますので、使用しないでください。

お知らせ

- 家庭用の交流 100 V 電源以外(車載用など) から充電すると、充電器が高温になったり、故障するおそれがあります。
- 充電器のプラグをコンセントに差し込むと、火花が発生する場合があります。回避方法としてスイッチ付電源タップをご使用になることをお勧めします(64 ページ)。
- 走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。
バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します(周囲の温度により、充電開始までに 1 ~ 2 時間かかる場合があります (63 ページ))。
- バッテリーは充電待機中、自動で残量表示ランプ 1・3・5 番目が同時点滅するモデルがありますが、異常ではありません。
- バッテリー容量により、最後の残量表示ランプが全点灯から消灯に変わるまでの時間は異なります。

充電しましょう(つづき)

4. 充電が完了したら、バッテリーを充電器から外す



- ① 充電器を手で押さえ、バッテリーを手前に倒して(1の方向)、取り外す(2の方向)
- ② コンセントから電源プラグを抜く

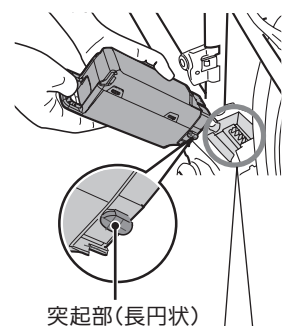
⚠ 注意



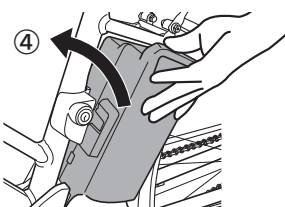
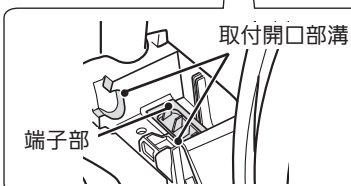
必ず守る

■充電器を手で押さえながらバッテリーを外す
(充電器が落下し、けが・破損のおそれ)

5. バッテリーを自転車に取り付ける



- ① バッテリーロックにキーが差し込まれている場合は、抜く
- ② バッテリーを残量表示ランプのある面を手前にして両手で持つ
- ③ バッテリーを手前に倒しながら、取付開口部の溝とバッテリーの突起部(長円状)を合わせる
- ④ バッテリーを起こして、しっかりと最後まで押し込む
- ⑤ 最後に手前に引いて、外れないことを確認する



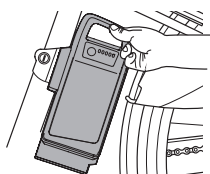
⚠ 警告



必ず守る

■確実に自転車に装着されているか確認する

(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。



⚠ 注意



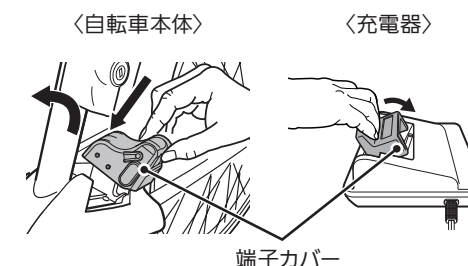
禁止

■バッテリーとフレームの間に指を入れない
(指を挟み、けがをするおそれ)

充電するときのポイント

お願い

- 初めて乗る場合や、1か月以上乗車していないときは、必ず充電してください(出荷時は、満充電していません)。
- 充電器は5℃～35℃の場所に設置してください。
- バッテリーの温度が0℃以下または充電する場所との温度差が大きい場合は、十分に充電できていない場合があります。その場所で1時間以上放置してから充電してください(64ページ)。
- 雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください(充電器内に水が入って故障の原因になります)。
- 充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください(充電中の熱により、ケースなどが変形するおそれがあります)。
- じゅうたんや不安定な床材などの上では使用しないでください。
- 使用しなくても、半年に1回は充電してください(66ページ)。
- テレビ・ラジオなどのそばで充電した場合、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりすることがあります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど)充電を行ってください。
- 自転車本体もしくは充電器の端子部にほこりがたまらないよう、ご注意ください。長時間バッテリーを取り外したままにするときは、それぞれの端子部に端子カバー(別売品 70ページ)をかぶせておくことをお勧めします。



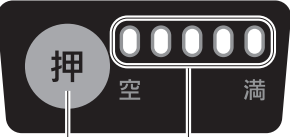
お知らせ

- バッテリー保護のために、満充電からの再充電はできません。
- バッテリーの温度が低温・高温時ともに充電時間は長くなります。
- 充電中に充電器が熱くなりますが、異常ではありません。

充電しましょう(つづき)

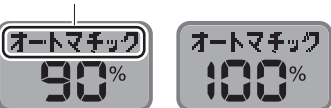
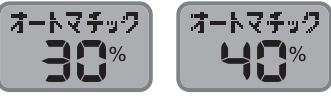
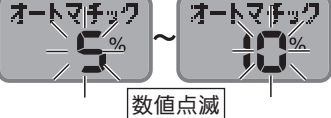
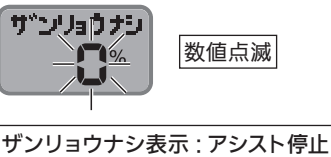
■バッテリーの残量について

●走行まえに、バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプで残量をお知らせします(あくまでも目安としてご使用ください)。

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	目安
LED ランプ 5 つとも点灯 	81 % ~ 100 %	アシスト走行できます 満充電からスイッチの電源を入れて走行すると、1 灯ずつ点灯数が減ります。
LED ランプ 4 つ点灯 	61 % ~ 80 %	
LED ランプ 3 つ点灯 	41 % ~ 60 %	
LED ランプ 2 つ点灯 	21 % ~ 40 %	
LED ランプ 1 つ点灯 	11 % ~ 20 %	充電時期のお知らせ そろそろ充電してください。アシスト力が徐々に低下する場合があります。
LED ランプ 1 つ点滅 	0 % ~ 10 %	
LED ランプ 1 つ点滅 	0 %	アシスト走行停止 充電してください。 充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

- お知らせ**
- バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このようなときは、再度充電してください。
 - バッテリー残量が少ない状態で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

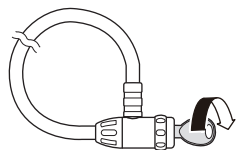
手元スイッチの液晶表示でも、残量が確認できます。

手元スイッチ 液晶表示部の表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	目安
アシストモード表示 	81 % ~ 100 %	アシスト走行できます バッテリー残量が、100 パーセントから 21 パーセントの間は 10 パーセントずつ表示が減ります。
	61 % ~ 80 %	
	41 % ~ 60 %	
	21 % ~ 40 %	
	11 % ~ 20 %	充電時期のお知らせ 20 パーセントから 5 パーセントまでは 1 パーセントずつ表示が減ります。 アシスト力が徐々に低下する場合があります。
	5 % ~ 10 %	
	0 % ~ 4 %	アシスト走行停止 充電してください。 充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

- お知らせ**
- 残量が 0 パーセントから 4 パーセントまでは「0 %」の点滅表示になります。
 - 手元スイッチの液晶表示部は、残量が 0 (空) になると、アシストモード表示が「ザンリョウナシ」になります。

さあ、乗りましょう！

1. ワイヤ錠を解錠する



- ① キーを時計方向に回し、解錠する

お知らせ

- バッテリーロックとワイヤ錠は、同一のキーで解錠できます。

2. スタンドを上げ、乗車する



- ① スタンドロックを足で押して解除する
- ② スタンドを後方へ完全にはね上げる

お願い

- スタンドロックを押しながら、スタンドを後方へはね上げないでください。故障の原因となります。

3. ペダルを踏まずに電源を入れる



- ① 手元スイッチの電源ボタンを押す

- ・液晶表示部に「888」が表示され、電源が ON になります。約 1 秒後にバッテリー残量表示(%) に切り替わります。

お願い

- 「888」表示の間は駆動ユニットの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。

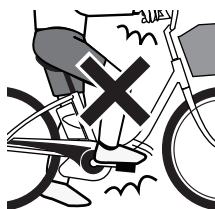
ペダルを踏みながら電源を入れると、ペダル入力が小さい状態と誤検知され、走行時にアシスト力が弱くなります(故障ではありません) (P.62 ページ)。

- 電源ボタンを押しても手元スイッチの液晶表示部が点灯しないときは、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。

- 走行途中には電源を入れないでください。

お知らせ

- 電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動的に電源が切れます(オートオフシステム)。再度走行するときは、電源を入れてください。



4. サドルに座り発進する



- ・ハンドルをしっかり握り、前後左右の安全を確認してから、発進してください。
- ・発進すると電動アシストシステムが働き、作動音がします。

警告



禁止

■けんけん乗り(けり乗り) しない

(転倒や接触事故によるけがのおそれ)

⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。



- けんけん乗り(けり乗り) とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

注意



禁止

■バッテリーロックにキーを付けたまま走行しない

(足に当たってけがをするおそれ)

お願い

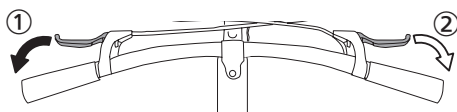
- 慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
- 土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
- 停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
- 走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

- 走行中は、ラジオなどに雑音が入る場合があります。
- ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
- スピードメーターなどのワイヤレス式の機器を使用すると、誤表示となる場合があります。

さあ、乗りましょう！(つづき)

ブレーキのかけかた



- ① 先に、左手のブレーキ(後ブレーキ)をかけてから
- ② 右手のブレーキ(前ブレーキ) をかける



警告



禁止

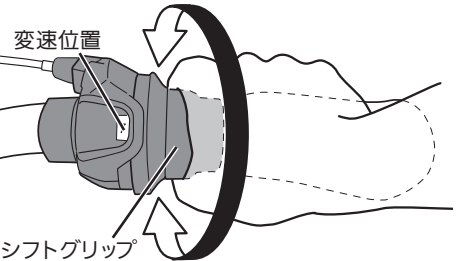
- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)
- 前ブレーキだけを強くかけない
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)

お願い

- 急ブレーキをかけなくても良いように、いつも前方に注意してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度が出すぎないように走行してください。
- 急な坂道のときは、降りて押してください。

変速のしかた

- ハンドルの外側に回す
(1→2→3→4→5→6→7)



- ハンドルの内側に回す
(7→6→5→4→3→2→1)

お願い

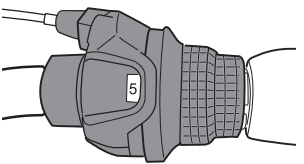
- 変速操作は、よく練習してください。
- シフトグリップを無理に回す変速はしないでください(変速機を傷める原因になります)。

- ① ペダルを踏む力を抜いて、シフトグリップを1段ずつゆっくり回す
・位置決めの軽い手ごたえがあるまで回してください。

変速位置	1	2	3	4	5	6	7
ペダルの回転が	軽くなる ← → 重くなる						

●変速機の上手な使いかた

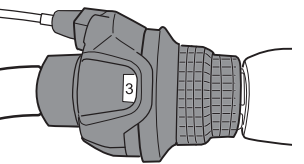
平地
を走るとき…



シフトを5(から7)の
位置に合わせる

安全に走行するために、発進するときや、きつい上り坂の手前では、シフトを1から2に合わせてください。

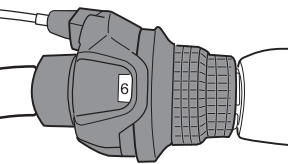
上り坂
のとき…



上り坂の手前で…

シフトを3(から5)の
位置に合わせる

下り坂
のとき…



下り坂の手前で…

シフトを6(または7)
の位置に合わせる

お願い

- 上記は推奨変速位置です。標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力に合わせ、適切な変速位置をお選びください。
- 長期間変速しない場合(保管時含む) や、極端な低温でのご使用で変速ワイヤが固着し変速できなくなることがあります。走行前には正しく変速することを確認してください。また固着を防止するためにも、走行時はこまめな変速をこころがけてください。

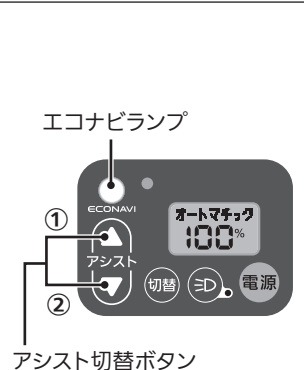
●安全に走行するには…

- 軽めの変速位置を選んでください(特に発進と上り坂)。
- 変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調などによって、最適の位置を選んでください。
- タイヤの空気圧はいつも適切にしてください(36 ページ)。

さあ、乗りましょう！(つづき)

アシストの強さを変える

手元スイッチに電源が入った状態で、アシスト切替ボタンを押すと、アシストモードの切替ができます。

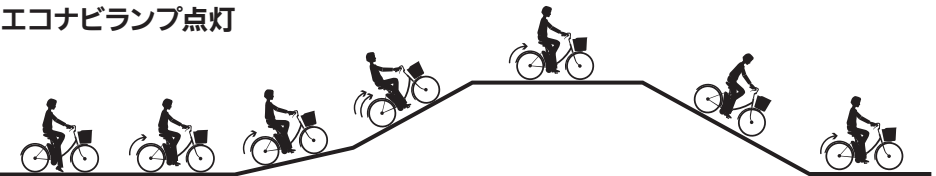


エコナビランプ

① アシスト切替ボタン

アシストモード	
「パワ－」……	常にパワフルなアシスト力で、坂道や重い荷物を積んでいるときでも快適な走行ができます。
① ↑ ↓ ②	
「オートマチック」……	走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールします。
① ↑ ↓ ②	
「ロング」……	走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールし、さらにアシスト力を抑え、1回の充電で長距離走行が可能です。

●アシスト力の変化とエコナビランプ点灯



モード設定／走行条件	スタート	平地	上り坂	急な上り坂	平地	下り坂	平地
『パワ－』	強 ○	強 ○	強 ○	強 ○	強 ○	アシスト OFF ○	強 ○
『オートマチック』	強 ○	中 点灯	強 ○	強 ○	中 点灯	アシスト OFF 点灯	中 点灯
『ロング』	中 点灯	弱 点灯	中 点灯	中 点灯	弱 点灯	アシスト OFF 点灯	弱 点灯

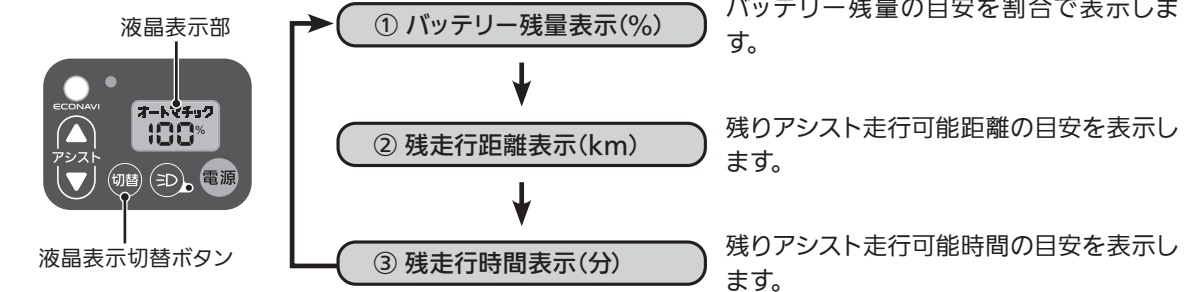
エコナビ点灯 点灯 エコナビ消灯 ○

お知らせ

- 「オートマチック」「ロング」モード選択時には、エコナビランプが点灯してエコ運転(省エネ) 走行をお知らせします。
- 坂道や重い荷物を載せて走行するときは、アシスト切替ボタンを押し、「パワー」にしてください。
- 電源を入れたときは、前回電源を OFF したときのモードで起動します(オートメモリー機能)。
- アシスト切替ボタンを何度か押すことで、アシストモードを一巡することはできません。

液晶表示の切替について

手元スイッチに電源が入った状態で、液晶表示切替ボタンを押すと、「バッテリー残量表示」→「残走行距離表示」→「残走行時間表示」の順で、データを表示できます。



表示項目	表示例	表示例の説明
①バッテリー残量表示(%)		バッテリー残量が、100 パーセント満充電状態です。
②残走行距離表示(km) (残りアシスト走行可能距離)		残り 30 km アシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。
③残走行時間表示(分) (残りアシスト走行可能時間)		残り 128 分アシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。

上記内容は表示例であり、実際の表示とは異なる場合があります。

● 1 満充電当たりの走行距離を確認したい場合

- ① バッテリーを満充電にして自転車に装着してください。
- ② 液晶表示切替ボタンで残走行距離表示にして、走行距離を確認してください。表示値は目安としてご使用ください。実際の走行状況により、50 ページの測定値とは異なります。

お知らせ

- 電源を入れたときは、「バッテリー残量表示」から表示します。
- 残走行距離表示や残走行時間表示は目安となる数字です。実際の走行状況により異なる場合があります。
- 満充電時の残走行距離表示、残走行時間表示は、バッテリーの劣化状態(バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行できる距離が短くなります)により、最大値が小さくなります。

さあ、乗りましょう！(つづき)

走行できる距離の目安

● 1回の充電で走行できる距離の目安は下表のとおりです。

走りかた	走行条件		走行距離(km)			
			10	20	30	40
標準パターン (業界統一テスト条件)※	標準パターン(4 km) Aは、平坦路 1 km、 変速 7、15 km/h	パワー			30 km	
	Bは、4 度坂 1 km、 変速 4、10 km/h	オートマチック			38 km	
	Cは、平坦路 1 km、 変速 7、15 km/h	ロング			50 km	
4 度登坂連続パターン	Dは、4 度坂 1 km、 変速 7、20 km/h	ロング			50 km	
	●印は 10 秒間の停止を表す					
	4 度坂、変速 4、10 km/h	パワー		10 km		
		オートマチック		13 km		
		ロング		19 km		

●測定方法 一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準 (2010 年 4 月 1 日施行)』に基づき測定

※一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準』に準拠したテスト条件。

先に記載している、1 満充電当たりの走行距離の測定条件は、以下のとおりです(業界統一テスト条件)。

- 1) 環境温度は 20 ± 5 °C、無風の状態
- 2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
- 3) 車載重量(乗員と荷物の合計) は 65 kg
- 4) 路面は乾燥した平滑な路面
- 5) タイヤ空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧
- 6) シャーシダイナモ(室内計測機) による計測

- 各アシストモードの詳細については、48 ページをご覧ください。
- 走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。また、冬期など気温が低いときにも短くなります。

●走行距離が短くなる環境 / 使いかた

冬期、寒いとき※1	坂道が多いとき	向かい風が強いとき※2 や 走行速度が速いとき	ペダルが重くなる走りかた (例: 重い変速位置[ギヤ]で走行) 急加速をしたとき
乗員体重、積載質量(荷物)が重いとき※3	発進、停止、加減速の回数が多いとき	路面の状態が悪い (凸凹道) とき	タイヤの空気圧が低下しているとき

- ※1 冬期(寒い環境 約 5 °C 以下) では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇒バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。
- ※2 風速 2 m/s の向かい風中を走行した場合、約 40 パーセント、走行距離が短くなります。
- ※3 積載質量(乗員体重) が 10 kg 増えた場合、約 10 パーセント、走行距離が短くなります。

- バッテリーは消耗品です。使いかたによっては 3 年程度で容量が半分以下になる場合があります。1 回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。
⇒乗車まえにバッテリーの残量確認を心掛けてください。
- そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗りかたなどにより、大幅に短くなることがあります。
- 次のようなときはアシスト力は働きません。
 - ・速度が 24 km/h 以上のとき。
 - ・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。

■チャイルドシートのご使用について

- この電動アシスト自転車に、チャイルドシートを取り付けることはできません。

■リヤキャリアのご使用について

- この電動アシスト自転車に、リヤキャリア(荷台)を取り付けることはできません。

■荷物を積むときは

- 別売品のバスケットを組み付ければ、荷物を載せることができます。

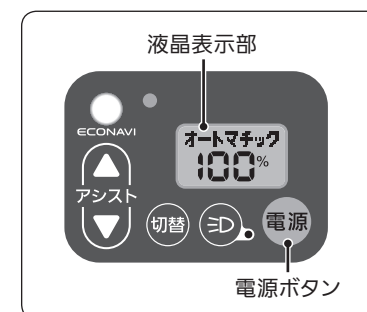
〈バスケット積載条件〉

- 大きさ：バスケットにおさまる大きさ
- 質量：3 kg まで

お知らせ

- バスケットを装着すると折りたたみ(車両本体部/ハンドル部)はできません。
- バスケットを装着したまま、輪行バックには収納できません。
- バスケット内にカバンなどを入れた場合、材質によってはカバンにバスケットの色が移ったり、汚れや擦れ傷が付くおそれがあります。

1. 自転車から降りるまえに、手元スイッチの電源を切る



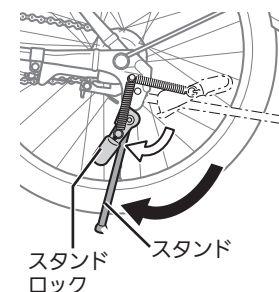
① 手元スイッチの電源ボタンを押す

- ・液晶表示部が消灯し、電源が OFF になります。

お知らせ

- バッテリーライト点灯時、電源を切ると、ライトは消灯します。

2. 駐輪する



① ブレーキレバーを握ったままサドルから降りる

② スタンドを立てる

- ・スタンドロックが自動的にがかかります。

お願い

- 転倒等によりスタンドが変形した場合、オートロック機構が作動しない場合があります。スタンドを立てたときにロックが働いているか確認してください。
- スタンドを立てた状態で、無理な力を加えないでください(サドルを持って自転車を持ち上げたり引きずったり、重いものを乗せたりしないでください)。

3. ワイヤ錠で施錠する

お願い

- 駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。
- 盗難防止のため、必ず施錠して駐輪してください。

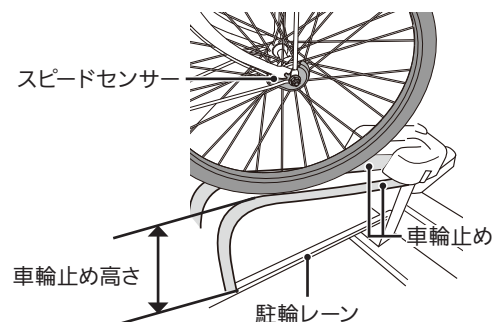
駐輪場をご使用になるときは

駐輪時、駐輪レーン上の車輪止め高さにより、駐輪設備に適應しない場合があります。
駐輪場にてご確認の上、ご使用ください。

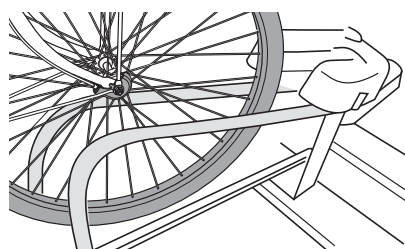
●車輪止め高さの確認

タイヤの幅	約 4.3 cm
スピードセンサー 下端までの高さ	約 19 cm

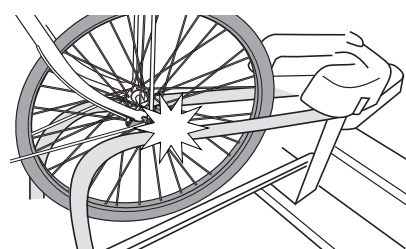
・自転車を左右および斜めに倒しても、車輪止めにスピードセンサーが接触しないことを事前に確認してください。
接触する場合は駐輪レーン付駐輪場のご利用はお控えください。スピードセンサーが変形したり破損するおそれがあります。



※上記レーンのイラストは一例です。



〈○ スピードセンサーが接触していない〉

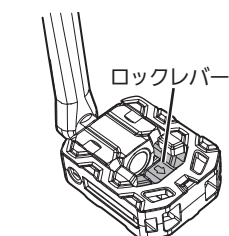


〈× スピードセンサーが接触している〉

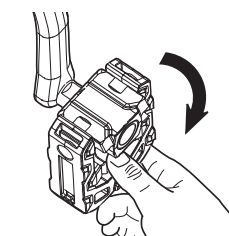
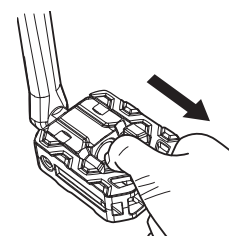
●スピードセンサーが変形・破損した場合

スピードセンサーが割れている、フロントフォークと接触・変形・破損などしている場合は、お買い上げの販売店へご相談ください(破損したまま走行すると、手元スイッチにエラー表示が点灯する場合があります)。

1. ペダルを折りたたむ



① ロックレバーを矢印の方向に押し込みながら、下方方向に側板を下げる



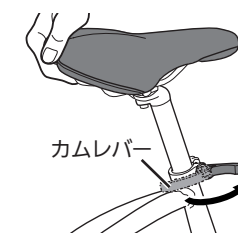
注意



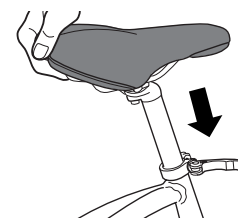
必ず守る

■側板の外側を持って作業する
(手や指を挟んでけがをするおそれ)

2. サドルを下げる

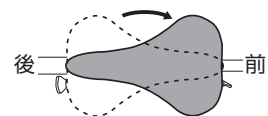


① サドルを支え持ちながらカムレバーを開ける



② サドルを下げ、後方に回転させる

③カムレバーを回転させずに開閉によって締め付ける

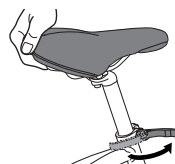


注意



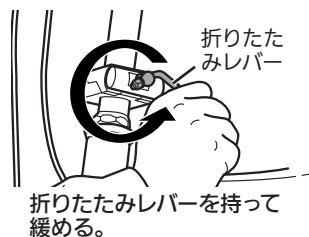
■カムレバーを開けるときは、サドルを支え持つ

必ず守る

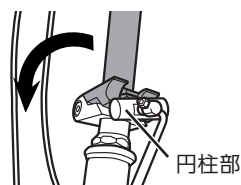


(サドルが落下し、手や指を挟んでけがをするおそれ)

3. ハンドルを折りたたむ



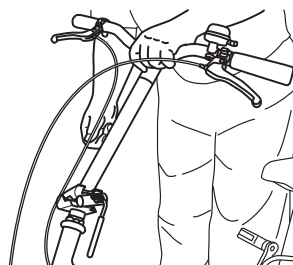
折りたたみレバーを持って緩める。



8～9回転緩める。

① 折りたたみレバーを持ち上げ、反時計方向に回転させて緩める

② ハンドルを折りたたむ



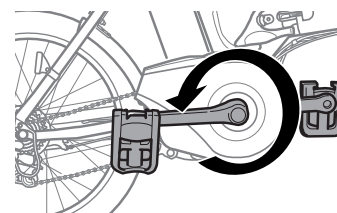
お願い

- ハンドルを折りたたむとき、ブレーキワイヤがジョイント部などに引っ掛からないようご注意ください。
- ハンドルを折りたたんだあと、折りたたみレバーを最後まで締め付けてください。

4. 車両本体(車体部)を折りたたむ



① ロックを解除しスタンドをはね上げる

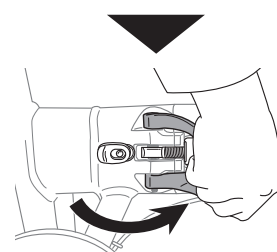


② 右側のペダルが後方になるように、ギヤクランクを回転する。

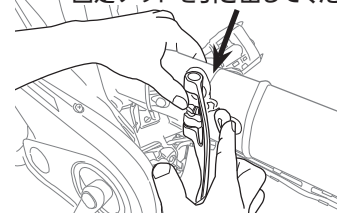
お知らせ

- 右側ペダルが後方に無いと、折りたたみや組み立てができない、あるいはフレームに当たってキズが付くおそれがあります。

③ クイックレバーフックを前方にスライドしてから、クイックレバーを進行方向(前方)へ回転する



接続部が開かないようにして、固定ナットを引き出してください。

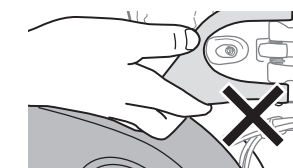


注意



禁止

■チェーンケースの内側に指を入れて、クイックレバーを引き出さない

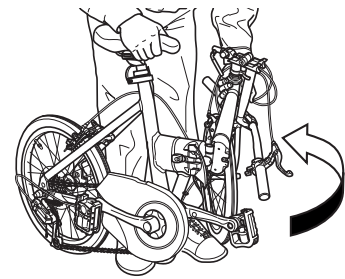


(指を挟み、けがをするおそれ)

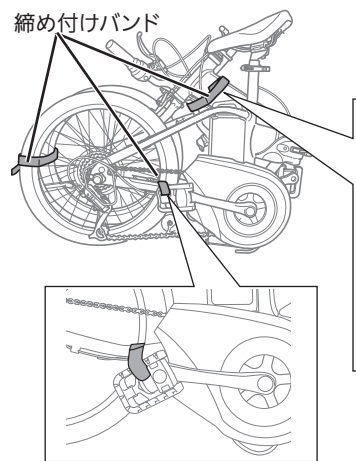
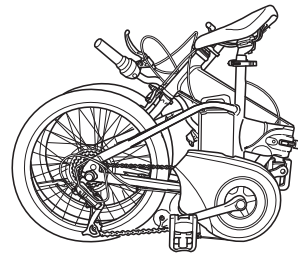
④ クイックレバー付け根の車体部を押し付けるようにしながらジョイント部の固定ナットを引き出す

お知らせ

- クイックレバーが進行方向(前方)に向いていると、ジョイント部の固定ナットが引き出しやすくなります。
- 接続部に少しでも隙間があると、固定ナットが引き出しにくくなります。



⑤自転車の前半分を、反時計方向に回転して折りたたむ



⑥付属の締め付けバンド(3本)で、前後の車輪、ハンドル、ペダルとチェーンステアを結束する

お願い

- 前後の車輪を結束してから、ハンドルを結束してください(バンドが取り付けられない場合があります)。
- 前後の車輪が平行になるように、均等に結束してください。
- 折りたたんだ状態での持ち運びは、自転車を両手でしっかり持ち、周囲の人、物に十分注意して行ってください。

お知らせ

- フレームを折りたたむ際は、必ずバッテリーロックキーを抜いておいてください。フレームにキズが付いたり、バッテリーロックキーが破損したりするおそれがあります。

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
- がんこな汚れには、台所用洗剤(中性)を薄めてご使用ください。



■次のような場所では、

〈湿気の多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など〉

- さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ステンレス部品

- ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。下記の点にご注意の上ご使用ください。
 - ステンレスに付着した鉄粉などがさびることによって「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください(例：鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品など)。
 - ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いたあともさびが発生しますので、水を含んだ布などでしっかりふき取ってください。

お願い

- 本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチ、バッテリーライトなどの電装部品や回転部(前後ハブ、ヘッド部など)にはホース先端をすぼめて圧力のある水を直接かけての洗車や、高圧洗浄機やスチーム洗車機を使った洗車はしないでください。水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。
- 融雪剤や農薬を散布した道路を走行後、または台風が通過したあとなどは薬剤や塩分の影響により、自転車のステンレス部品にもさびが生じることがあります。このような場合、水道水で薬剤や塩分を流していただき、乾いた布でふき取るようにしてください。
- 長期間ご使用になった場合、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなり、バッテリーの取り外しが固くなることがあります。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、金属製のものは使用しないでください。ショートして感電・火災のおそれがあります。ふき取っても汚れが取れないときは、販売店に依頼し、車体側接続端子を交換してください。
- バッテリーケースの汚れは、水を含んだ布などでふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください(塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします)。
- サドルには、ワックスをかけないでください(座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします)。
- 雨天走行後は、黒く変色するのを防ぐため、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください。
- 定期的にリム側面の清掃を行ってください。清掃しないと、ブレーキとの擦れくずや汚れなどが飛び、衣服が汚れるおそれがあります。

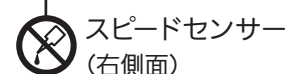
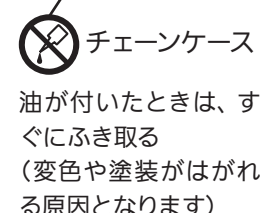
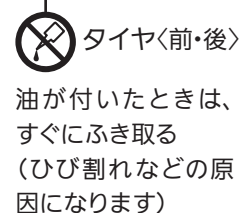
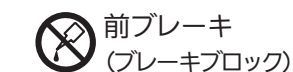
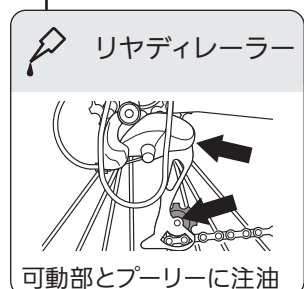
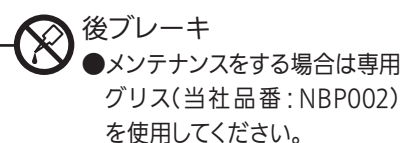
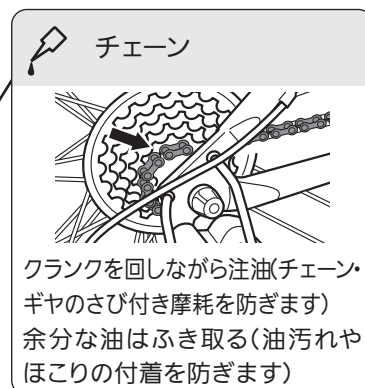
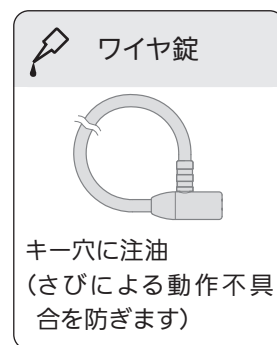
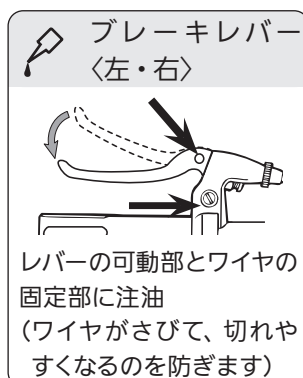
注油について

注油場所と注油禁止場所

-  このマークは、注油場所を示します。
-  このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

- 油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。（食用油などは、硬化するおそれがあります）
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。
- 別売品（アクセサリー）についても、同様のメンテナンスをお願いします。



運搬／保管／廃棄について

運 搬

警告



- 自転車運搬するときはバッテリーを外す
（自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ）

注意



- サドルを持ち上げて移動させない
（サドルが破損し、けがをするおそれ）

お知らせ

- リチウムイオンバッテリーは危険物であるため、基本的には公共交通機関への持込や飛行機や船での輸送は禁止されています。ただし、輸送・公共交通事業者によっては、制限を設けた上で、輸送（輸行）可能な場合があります。そのため、事前に利用しようとする事業者にお問い合わせください。

保 管

■保管場所（下記の場所に保管してください）

- 安定の良い所
- 風通しが良く、湿気の少ない所
- 雨つゆや直射日光が当たりにくい所

お知らせ

- バッテリーのケースや樹脂カバー類で白色や淡い色の物は、長期間の使用により変色や色あせが生じます。それを緩和するため、日の当たらない所での保管や「サイクルカバー（[70](#) ページ）」の使用をお勧めします。

■タイヤの管理

- 空気を適正空気圧まで入れてください（[36](#) ページ）。

■長期間保管する場合

- ごみやほこりが付くのを防ぐため、「サイクルカバー（[70](#) ページ）」の使用をお勧めします。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりが付かないように、「端子カバー（[70](#) ページ）」を装着することをお勧めします（端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります）。

■バッテリーの保管

- バッテリーの保管については [66](#) ページをご覧ください。

注意



- 台風など雨風が強い屋外で自転車を横倒しにして保管しない
（モーターやバッテリー内部に水が浸入し、異常動作によりけがの原因）

注意



- 長期間保管した場合は乗るまえにワイヤ類の点検を行う
（ワイヤ類が固着してスムーズに動作せず、転倒につながりけがの原因）

廃 棄

- 自転車・充電器を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
- 使用済みの充電式バッテリーは、お早めに販売店にお持ちいただくかリサイクル協力店にご相談ください（資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう）。

故障かな？

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症 状	対 処 方 法	ペー ジ
ペダルが重い・アシストしない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇒バッテリーを確実に取り付けてください。	40
	●バッテリーの残量表示ボタンを押したときに、2・4 番目の LED ランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇒バッテリーを充電してください。	38
	●バッテリーの残量表示ボタンを押しても、LED ランプが点灯しないときは、保護機能が働いています。 ⇒バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	38
	●充電ができていますか？ ⇒バッテリーを充電してください。	38
	●配線が緩んでいたり、端子が汚れていたりしませんか？ ⇒販売店にご相談ください。	—
	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇒電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	44
補助(アシスト) が切れたり入ったりする	●停止して 10 分以上たっていませんか？(オートオフシステム) ⇒電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	44
	●液晶表示部に「アシストナシ」と表示されていませんか？ (手動でバッテリーライトを点灯させている場合) ⇒電源ボタンを押して、電源を入れてください。	24
補助(アシスト) が弱い		
補助(アシスト) しない		
充電できない	＜バッテリーの残量表示ボタンを押して確認してください＞ ○ランプが 5 つ点灯のとき ⇒満充電のため、再充電はできません。1 度使用してから、充電してください。	—
	○1・3・5 番目のランプが同時に点滅のとき ⇒高温・低温による充電停止です。温度が常温に戻るまでお待ちください。 ○ランプが空 ⇒ 満(左 ⇒ 右) に 1 個ずつ流れるように点滅のとき ⇒バッテリーの故障が考えられますので販売店にご相談ください。	

症 状	対 処 方 法	ペー ジ
充電できない	●バッテリーが充電器に正しく挿入されていますか？ ⇒バッテリーを充電器に正しく挿入してください。	39
	●充電器のバッテリー挿入部が汚れていませんか？ ⇒汚れを取り除いてください。	
バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●走行直後ではありませんか？ ⇒走行直後はバッテリーの温度が上昇し、充電できない場合があります。温度が下がるまでお待ちください。	—
	●高温・低温による充電停止です。 ⇒周囲温度が 5℃～ 35℃の場所で充電している場合は、そのまま充電を続けてください。バッテリーの温度が充電に適した温度になると自動的に充電を開始します。	41
バッテリーの残量ランプの 1・3・5 番目が同時に点滅する(充電中に表示しない場合もあります)		
走行距離が短い	●充電ができていますか？ ●長期間使用せずに、放置されていませんか？ ⇒バッテリーを充電してください。	38
	●初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇒バッテリーを充電してください。	38
手元スイッチの液晶表示部が短い走行で点滅を始める	●道路条件や変速位置、51 ページに記載しているような走行により、走行距離が、短くなります。	50
	●冬期は、バッテリーの特性で性能の低下が大きくなります。	51
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示のあと、ランプが満 ⇒ 空(右 ⇒ 左) に 2 個ずつ流れるように 2 回点滅表示する	●タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇒自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	36
	●ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇒ブレーキの調整を販売店に依頼してください。	33
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示のあと、ランプが満 ⇒ 空(右 ⇒ 左) に 2 個ずつ流れるように 2 回点滅表示する	●繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化(性能低下) します。 ⇒ 1 回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合(新品時の約 50 パーセント以下) は、新しいバッテリーに交換してください。	66
	●バッテリーが劣化し、容量が新品時の約 50 パーセント以下になっています。 ⇒新しいバッテリーに交換してください(故障ではありませんので使用できますが、残量ボタンを押すたびに表示が現れます)。	66

必要なとき

必要なとき

故障かな？(つづき)

症 状	対 処 方 法	ペー ジ
充電器が熱くなる	●充電中に、充電器が熱くなります(底面は、天面や側面よりも熱くなります)。 ⇒異常ではありません。	—
	●充電器本体が変形などしている場合は異常です。 ⇒直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。	—
バッテリーが熱くなる	●手で触れられないほど熱い場合は異常です。 ⇒直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない	●充電途中で電源プラグを抜きましたか？ ⇒再度充電してください。	38
	●充電器の端子が汚れていませんか？ ⇒乾いた布などで清掃してください。	39
	●長期間使用されたバッテリーですか？ ⇒バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	—
充電が完了したのに、車体に搭載すると、手元スイッチの残量が100%にならない	●バッテリーが高温、または低温になっていませんか？ ⇒保護機能により充電待機状態になり、満充電されていません。周囲温度が5℃～35℃の場所で充電している場合は、そのまま充電を続けてください。バッテリーの温度が充電に適した温度になると自動的に充電を開始します。	41
充電器のプラグをコンセントに差し込むと火花が散る	●充電器は正常なものでも火花が発生する場合があります。 ⇒電気は直流・交流に関わらず回路が成立する直前(金属が触れる直前)から流れ始めるため、電圧・電流の違いにより必ず大小の火花は出ております。スイッチ付電源タップをご使用の場合、OFFにして接続し、ONにすると火花は発生いたしません。ただし、コンセント端子以外から火花が発生している場合は製品の異常が考えられます。販売店にご相談ください。	39
ペダルに振動を感じる	●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性です。故障ではありません。	—
明るくなってもバッテリーライトが自動で消灯しない	●手元スイッチの保護フィルムをはがしましたか？ ⇒照度センサーの感度が悪くなる場合がありますので、手元スイッチの保護フィルムをはがしてください。	24

手元スイッチに次の表示が出たときは、内容を確認して対処してください。

表 示	対 処 方 法	ペー ジ
	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇒ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源を入れてください。 ※改善しない場合は、販売店に修理をご依頼ください。	44
	●手元スイッチと駆動ユニットの間の通信異常です。 ⇒販売店に修理をご依頼ください。	—
	●駆動ユニットの異常です。 ⇒販売店に修理をご依頼ください。	—
	●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇒変速を「1～2」にし、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※(炎天下での乗車など) 保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	●スピードセンサーが正しく信号を検出できていません。 ⇒電源を入れ直してください。直らない場合は販売店にご相談ください。 ※スタンドを立てた状態(両立スタンド装着車の場合)でペダルをこぐと、『S センサエラー /E2』が表示される場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。	—

お知らせ

●S センサエラー、M1・M2・B1・B2 オーバーヒートの複数エラーが発生した場合、それぞれ「S、M1、M2、B1、B2」と省略して表示する場合があります。

バッテリーについて

■バッテリーの種類

- この自転車には、メモリー効果の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

お知らせ

- バッテリーは標準品もしくは互換性のある当社製バッテリーを使用してください(☎ 70 ページ 互換性のあるバッテリーについては、販売店にご相談ください)。

■バッテリーの容量表示

- バッテリー本体のPSEマーク部に表示している容量表示数値(8 Ah) は電気用品安全法(PSE)においてJIS C8711で規定された試験での測定容量値を定格容量値として表示しています。
- バッテリーのPSEマーク部以外の部分、取扱説明書、カタログの容量表示数値は実走を想定した社内試験条件放電での平均値(8 Ah) を容量値として表示しています。

■バッテリーの交換・廃棄

- お買い求めの販売店にご相談ください。



大部分の素材がリサイクル可能です。貴重な資源を守るために、使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーは、廃棄しないで販売店にお持込いただくリサイクル協力店にご相談ください。弊社は小形充電式バッテリーの回収・リサイクルを実施する「一般社団法人 JBRC」に参画し、リサイクル活動を推進しています。リサイクル協力店をお探しの場合は下記ホームページよりご検索ください(<https://www.jbrc.com>)。

■交換時期の目安

- バッテリーは消耗品です。使いかたによっては3年程度で容量が半分以下になる場合があります。1回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。

お知らせ

- 700～900回の充放電で走行できる距離が購入時の約半分になります。
- 冬期(約5℃以下)や寒い環境下では、1満充電あたりの走行距離が短くなります。この現象はバッテリーの特性で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。
- バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、残量表示ランプ2～3個点灯の状態でご保管してください。
- 周囲気温が涼しい場所(15℃～25℃)で保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、半年に1回は充電器に搭載し、残量が2～3個点灯になるまで充電してください。
- バッテリーの残量表示ボタンを押した場合、LEDランプが点灯しないときは、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
- 長期保管後再使用する場合、あらかじめバッテリー残量を確認し、不足しているときは、必ず充電してください。

お知らせ

- バッテリーが劣化する条件(以下のような条件では劣化が早まります)
 - ・放置期間が長く、使用頻度が低いとき
 - ・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
 - ・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管したりしたとき
- 劣化したバッテリーは必要以上の充電を行わないように、充電量(バッテリー容量)を制限し、お知らせする機能を搭載しています(☎ 63 ページ)。

■特別保証期間および保証対象

1. 電動アシスト自転車用リチウムイオンバッテリーの特別保証期間

お買い上げ日から2年間

保証対象：電動アシスト自転車用バッテリーの材料、製造の不具合

保証条件：お買い上げ日から2年以内かつ満充電回数700回以下で、初期容量の50パーセント以下に劣化した場合

2. 保証期間内でも次の場合には原則として保証対象外とさせていただきます。

(イ) 保証対象外となる症状

- (1) バッテリーの特性による使用環境、天候、積載条件などに起因する1満充電あたりの走行距離低下(一時的なものを含む)
 - ・外気温が低い冬期に、1満充電での走行可能距離が夏期使用時より少なくなる現象
 - ・上り坂が多い、発進頻度が高い、積載量を含む総重量が重いことによる1満充電での走行距離が短くなる現象など
- (2) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための一時的なアシスト力低下
 - ・外気温が10℃以下の冬期使用時に、一時的にアシスト力が低下する現象
 - ・外気温が高い夏期に、長い坂道を登ったり、重い荷物を積載して走行したりした場合、システムの保護のためにアシスト力が低下する現象など
- (3) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための充電の一時的な中断・待機の現象(回生充電も含む)
 - ・気温0℃以下の低温、夏の直射日光が当たる場所や走行直後の高温時に充電した場合、充電の中断または待機になる現象など

※上記(1)～(3)のバッテリー特性について、詳しくは本書の「走行距離が短くなる環境 / 使いかた」、「バッテリーについて」をご確認ください。

(ロ) 誤った使用および不当な修理やバッテリーの分解、バッテリー内部部品の交換、バッテリーパック内部セルの直はんだなどの改造・加工をしたバッテリーを弊社電動アシスト自転車に使用されたことが原因で発生する故障および損傷

(ハ) 落下や水の浸入などの取り扱いの誤りによる故障および損傷

(ニ) 業務用(荷物運搬・新聞配達など)、営業用(レンタサイクルなど)、不特定多数で使用された場合の故障および損傷

(ホ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)等による故障および損傷

(ヘ) 保証書のご提示が無い場合

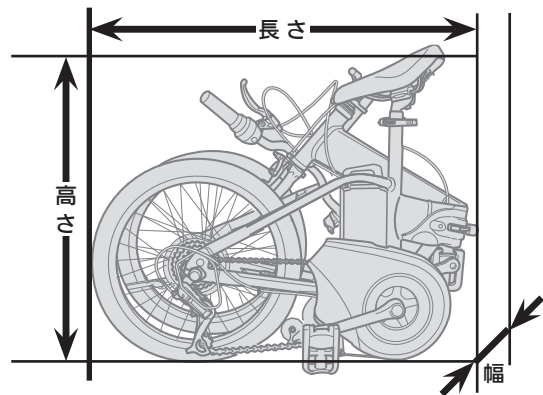
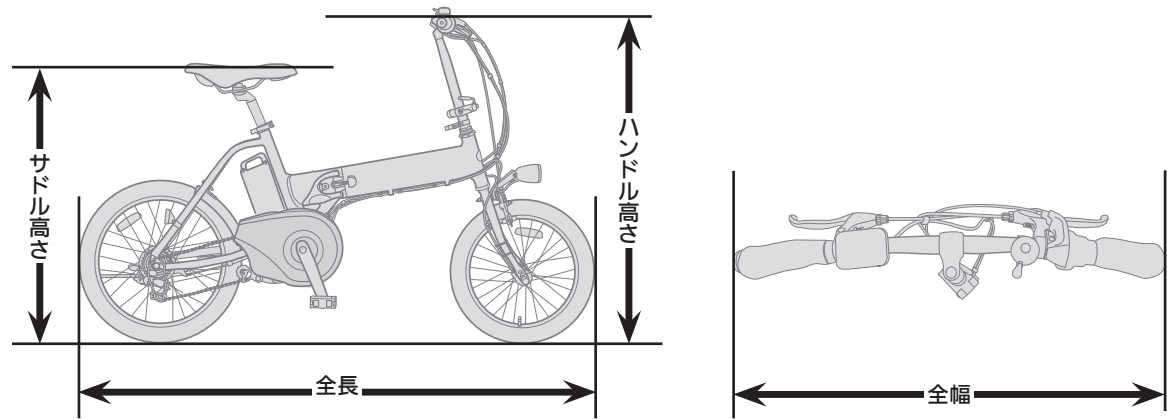
(ト) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、あるいは字句を書き替えられた場合

仕 様

品 名		オフタイム
品 番		BE-ELW075
寸 法	全 長	1,520 mm
	全 幅	570 mm
	ハンドル高さ	930 mm
	サドル 高さ	790 mm ～ 955 mm
	折りたたみ時	高さ : 670 mm
		長さ : 880 mm
		幅 : 490 mm
軸間距離	1,045 mm	
総車両質量(バッテリーを含む)		20.6 kg
フレーム		H 形
ハンドルバー		ストレート
ペダル		折りたたみペダル
スタンド		1 本スタンド
タイヤ(前後)		前 18 × 1.75 HE / 後 20 × 1.75 HE
リフレクター		シートステー、バッテリーライト部、前後車輪、ペダルに取り付け
補助速度範囲 変速7の位置		24 km/h 未満
充電 1 回の走行距離 (標準パターン)		30 km※ (パワーモード使用時)
モーター形式 定格出力		直流ブラシレスモーター 250 W
補助力制御方式		踏力比例制御 - 磁歪式
バ ッ テ リ ー	品 番	NKY576B02
	種 類	リチウムイオンバッテリー
	容 量	25.2 V - 8 Ah(14 cells)
	質 量	約 1.9 kg
	ワット時定格量	202 Wh
充 電 器	品 番	NKJ075Z
	形 式	スタンド型
	電 源	交流 100 V(50 Hz / 60 Hz)
	充電時間	約 3.0 時間
	質 量	約 1.0 kg
	消費電力	約 260 VA
	待機消費電力	約 0.5 W
	充電できるバッテリー	🔌 70 ページ 別売品(アクセサリ) バッテリー(交換用)をご参照ください
変速機方式		外装 7 段シフト
駆動方式		クランク軸上合力発生一体型
制 装 動 置	前 輪	サイドプル形キャリパーブレーキ
	後 輪	ローラーブレーキ
照明装置		バッテリー式前照灯
施錠方式		ワイヤ錠
乗車適応身長		149 cm ～ 185 cm
許容積載質量(乗員 + 荷物)		68.0 kg
最大総質量(自転車 + 乗員 + 荷物)		88.6 kg

- 乗車適応身長は、両足のつま先が地面に着地できる身長を指します(☞ 12 ページ)。
 - 寸法や質量などの値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
 - 仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
 - この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
- ※走行条件：環境温度は 20 ± 5 ℃、無風の状態、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量 (乗員と荷物の合計) は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。
- ※※バッテリー容量の表示値については 66 ページをご覧ください。

■寸法について



必要なとき

必要なとき

別売品(アクセサリ)

- 安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください(当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります)。
- 別売品(アクセサリ)の品番・価格などは都合により変更することがありますので、取り付けの際に、販売店にご相談・ご確認ください(掲載している品番は 2022 年 6 月 現在のものです)。

■サイクルカバー:

SAR138 (前後裾絞り)

■輪行バッグ:

NAR170 (ナイロン製)

■バスケット:

NCB2196S (バスケットステー付)

※積載条件については、52 ページをご覧ください。

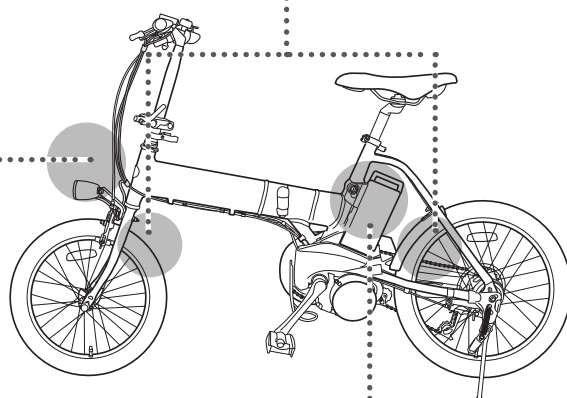
お知らせ

- バスケットを装着したまま、輪行バッグには収納できません。

■どろよけセット(前後):

NDD5669S (樹脂/黒)

NDD5577S (スチール/黒)



■バッテリー(交換用):

	16 Ah	12 Ah	8 Ah
ブラック	NKY580B02	NKY578B02	NKY576B02

- 2015 年モデル以前のバッテリーとは互換性がありません。
- バッテリー互換性(容量アップダウン)については、当社ホームページで確認いただけます。<https://cycle.panasonic.com/>

■スタンド式専用充電器:

NKJ075Z

■端子カバー:

NAH413(ブラック)

■USB 出力アダプター:

NKU001

定期点検について



警告



必ず守る

■定期点検と整備は、異音が生じたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず 6 か月に 1 回(初回を除き)実施する

(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)

⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

- ・初回(2 か月以内)の点検と整備

お買い上げ 2 か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。

- ・2 回目以降(6 か月ごと)の点検と整備

安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

■ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くても 2 年に 1 回は、交換する※

■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する※

■ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mm になるまえに交換する※

■ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロック(品番: NBC063FF)に交換する※

※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様(68 ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。

⇒交換は販売店に依頼してください。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。

いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後、初めての初回(2 か月以内)点検と、6 か月ごとの定期点検の実施をお願いします(裏表紙の点検・整備チェックリストにて実施をお願いします)。

※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

リチウムイオンバッテリー

愛情点検

長年ご使用のリチウムイオンバッテリーの点検を!



こんな症状はありませんか

- 充電中、異常な音が生じる
- リチウムイオンバッテリーが異常に熱い
- こげくさいにおいがする

ご使用中止

このような症状のときは事故防止のため、自転車・充電器から外して、必ず販売店に点検をご相談ください。

自 転 車

愛情点検

定期点検をし、安全走行をしましょう!



こんな症状はありませんか

- 異常な音が生じる
- がたつきや緩み
- 車輪の振れ
- ブレーキの利きが悪い

ご使用中止

事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

自転車安全基準／BAAマーク／点検整備済 TS マークのご紹介

この自転車は一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自転車安全基準

一般社団法人自転車協会が消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。
JIS(日本産業規格)をベースに、EN(ヨーロッパ規格)など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制(RoHS 指令)に基づいています。

BAA マーク



BAA マークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目指し、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入業者の責任で補償いたします。事故が発生した場合は、販売店にご連絡ください。

※一般社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償をいたすものではありません。

「BAA マーク」は、自転車のバッテリーロックキー付近に貼り付けられています。

※ BAA= 自転車協会認証 -BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

点検整備済 TS マーク(保険付き)のご紹介



- 工場出荷時に貼り付けている TS マーク(25 ページ) には、保険は付帯されていません。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付き TS マーク(左図) が別により、お客様のご希望により貼り付けることができます。
- 保険付き TS マークは、自転車安全整備店(TS マーク取扱店) で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認した上で貼ることができます。
- 費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店(TS マーク取扱店) にご相談ください。

お願い

- 点検 年 月 日 が記入されていない場合は、必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されないことがあります。

盗難補償優遇制度について

電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様で、ご購入日より 3 年以内に盗難にあわれた場合、盗難補償優遇制度が適用されます。盗難補償優遇制度とは、盗難車本体(充電器を含む)希望小売価格(税込)の 30 パーセントとその組立手数料 4,400 円(税込) で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記のとおりです。

ご購入時、CLUB Panasonic にて商品登録をいただくか、商品登録はがきに必要事項をご記入の上、パナソニック サイクルテック商品登録係にご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償が受けられます。

- (1) 盗難補償の期間と範囲
お買い求めの日から 3 年間の自転車(別売部品などを含む装着部品の盗難は除く)かつ、盗難日より 90 日以内に申し込みいただいた場合に限りです。
- (2) 盗難補償の内容
■お客様のご負担 ①充電器を含む本体希望小売価格(税込)の 30 パーセント
②組立手数料 4,400 円(税込) 2022 年 6 月 現在
- (3) 盗難補償の申し込み要領
■提出書類など ①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの
(警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書など)
②盗難車の保証書(原本)
③盗難車の純正キー(3 本)
④盗難補償申込書(販売店が用意いたします)
■申し込み先 お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
追って、販売店から新車をお渡しいたします。
- (4) 盗難車の所有権
盗難補償の申請に必要なもののすべてを販売店が受領した日を申請日とし、申請日の当日から起算して 11 日目に盗難車の所有権がパナソニック サイクルテック(株)に移転します。そのため、申請日の当日から起算して 11 日目以降に盗難車が発見された場合、当社は、当該車両の引取りを行って処分いたします(管轄警察署または保管施設から申請者本人の引取りを求められる場合があり、その場合は保管場所から引取りの上、車両を当社に引渡しいただきます)。
申請日の当日から起算して 10 日目までの期間においては、盗難車(その状態に関わらず)の所有権は申請者に帰属しています。
盗難車が発見された場合、申請者は、本申請をした販売(代納)店へのご連絡、警察へ手配の解除等を速やかに行うこととします。
これらの手続きを行わず、当社の補償を受けられますと、損害賠償請求をさせていただくことがあります。
- (5) 盗難補償ができない場合
①防犯登録がされていない場合
②商品登録されていない場合
③施錠せず盗難にあった場合
④補償期間が過ぎている場合
⑤景品などの贈呈品の場合
⑥(3)の盗難補償の申請に必要なものがそろわない場合
⑦申請日の当日から起算して、10 日目までに盗難車が見つかった場合
⑧盗難補償車が再度、盗難にあった場合
⑨自転車の占有を喪失していない場合
⑩盗難以外の理由で自転車の占有を喪失した場合

ご注意

- モデルチェンジや生産中止などによりスペックダウンする可能性がありますので、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。
- 新車のお届けは在庫状況によりお時間をいただく場合があります。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】
パナソニック サイクルテック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いたしております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

点検・整備チェックリスト

（販売店にチェック・記入を依頼してください。
定期点検・整備の料金は、お買い上げの
販売店までお問い合わせください。）

✓：異状無し A：調整、注油 △：修理 ×：交換 C：掃除その他 —：装着されていない部品

点 検 の 箇 所	点 検 項 目	販売時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
			2か月	6か月	1年	1年半	2年	2年半	3年
フ レ ー ム ・ フロントフォーク	変形、折損、ヒビ割れは無い								
	ヘッド、ハンガー小物にがたつきや摩耗は無い								
ハ ン ド ル	固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か								
	変形、折損、軽く回転するか								
ど ろ よ け	変形、取り付けは適正か								
キ ャ リ ヤ	変形、がたつき、折損は無い								
車 輪	固定は確実か、フレーム、フロントフォークに接触していない								
タ イ ヤ	切傷、摩耗は無い、空気圧は適正か								
リ ム	変形、振れ、摩耗（アルミリム）は無い								
ス ポ ー ク	緩み、折れ曲がり、切損は無い								
ハ ブ	ハブナットの緩み、玉押しのがたつきは無い								
ギヤクランク	ギヤ板の振れ、ヒビ入り、曲がり、がたつきは無い、 締め付けは十分な								
ベ ダ ル	固定は確実か、取り付け部（クランク側）にバリは無い								
	軸の回転は正常か、変形、カシメ、ねじの緩み、がたつき、 折損は無い								
ブ レ ー キ	引き具合は適正か								
	レバーの引き代に余裕はあるか、ワイヤ類にさびやほつ れは無い								
	ブレーキゴム類（ブレーキブロック、パッド、ライニング） の減りは無い								
変 速 機	作動は確実か								
ベ ル ト	ヒビ入り、歯欠け、折損は無い、張りは適正か								
チ ェ ー ン	油切れ、たるみは無い、ギヤとの噛み合わせは適正か								
サ ド ル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	取り付け位置、がたつき、損傷は無い								
ラ イ ト	点灯、照射は正常か、破損は無い、コード切れは無い								
リ フ レ ク タ ー	汚れ、がたつき、破損は無い、点灯（テールランプ付）は正常								
ス タ ン ド	作動は正常か、がたつき、変形、折損は無い								
ベル・ブザー	作動は正常か、変形、緩みは無い、よく鳴るか								
錠	作動は正常か、変形、緩みは無い								
そ の 他	各部のねじの緩み、損傷は無い								
注 油 箇 所	チェーン、ワイヤ、変速機、ブレーキレバー、スタンド の支点、バッテリーロックキー穴、錠前キー穴								
実施店	実施者氏名	実施日	年	年	年	年	年	年	年
			/	/	/	/	/	/	/
保証書に印字されている品番および車体番号を転記してください			確認印						
品番	車体番号			㊟	㊟	㊟	㊟	㊟	㊟

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町 13 番 13 号